

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局(43) 国際公開日
2004 年 2 月 5 日 (05.02.2004)

PCT

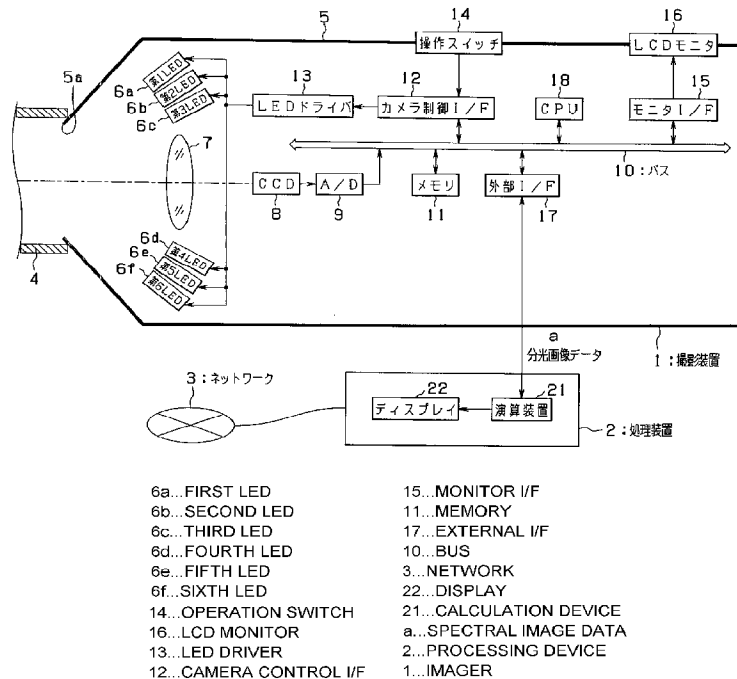
(10) 国際公開番号
WO 2004/012461 A1

- (51) 国際特許分類: H04N 9/04 (72) 発明者: および
(75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 小宮 康宏 (KOMIYA, Yasuhiro) [JP/JP]; 〒191-0055 東京都日野市 西平山五丁目 6 番 5 8 号 Tokyo (JP). 和田 徹 (WADA, Toru) [JP/JP]; 〒352-0004 埼玉県新座市 大和田一丁目 5 番 2 1 号 Saitama (JP). 今野 治 (KONNO, Osamu) [JP/JP]; 〒358-0044 埼玉県入間市 三ツ木台 3 8 号 Saitama (JP). 味戸 剛幸 (AJITO, Takeyuki) [JP/JP]; 〒192-0032 東京都八王子市 石川町 2 9 7 4 番 2 4-2 1 4 号 Tokyo (JP). 中村 智幸 (NAKAMURA, Tomoyuki) [JP/JP]; 〒191-0011 東京都日野市 日野本町三丁目 2 番 7-A 1 0 3 号 Tokyo (JP).
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2003/009380
- (22) 国際出願日: 2003 年 7 月 24 日 (24.07.2003)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願2002-218863 2002 年 7 月 26 日 (26.07.2002) JP
- (71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): オリンパス光学工業株式会社 (OLYMPUS OPTICAL CO., LTD.) [JP/JP]; 〒151-0072 東京都渋谷区 幡ヶ谷二丁目 4 3 番 2 号 Tokyo (JP).
- (74) 代理人: 伊藤 進 (ITO, Susumu); 〒160-0023 東京都新宿区 西新宿七丁目 4 番 4 号 武蔵ビル Tokyo (JP).
- (81) 指定国 (国内): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK,

[続葉有]

(54) Title: IMAGE PROCESSING SYSTEM

(54) 発明の名称: 画像処理システム



(57) Abstract: An image processing system comprising an imager (1) that includes six kinds of LEDs (6a to 6f) emitting lights of different spectral distribution characteristics in the visible region, a CCD (8) of monochromatic type that captures an image of an object illuminated by the LEDs (6a to 6f) formed by an imaging optical system (7) and outputs an image signal, and a CPU (18) for conducting control in such a way that when an instruction to capture an object spectral image is inputted from an

[続葉有]



DM, DZ, EC, EE, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KP, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NI, NO, NZ, OM, PG, PH, PL, PT, RO, RU, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SY, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, YU, ZA, ZM, ZW.

GR, HU, IE, IT, LU, MC, NL, PT, RO, SE, SI, SK, TR),
OAPI 特許 (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:
— 国際調査報告書

(84) 指定国 (広域): ARIPO 特許 (GH, GM, KE, LS, MW, MZ, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア特許 (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ特許 (AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB,

2 文字コード及び他の略語については、定期発行される各 *PCT* ガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイダンスノート」を参照。

operation switch (14), the LEDs (6a to 6f) are turned on sequentially to allow an the CCD (8) to image the object so as to create an object spectral image of six primary colors; and a processing unit (2) that includes a calculation device (21) for capturing the object spectral image of the six primary colors created by the imager (1) and generating a display signal for sophisticated color reproduction and a display (22) for displaying the display signal generated by the calculation device (21).

(57) 要約: 可視光域において異なる分光分布特性の発光を行う6種類のLED(6a~6f)と、これらLED(6a~6f)により照明され撮像光学系(7)により結像された被写体像を撮像して画像信号を出力するモノクロタイプのCCD(8)と、操作スイッチ(14)から被写体分光画像の撮影指示が入力されると上記LED(6a~6f)を順次点灯させて上記CCD(8)により各々撮像を行わせることにより6原色の被写体分光画像を取得するように制御するCPU(18)と、を含む撮影装置(1)と、上記撮影装置(1)により撮影された6原色の被写体分光画像を取得し高度な色再現を行うための表示信号を生成する演算装置(21)と、この演算装置(21)により生成された表示信号を表示するディスプレイ(22)と、を含む処理装置(2)と、を備えた画像処理システム。

明 細 書

画像処理システム

技術分野

この発明は、画像処理システム、より詳しくは、被写体分光画像を取得して被写体を高精度に色再現するための処理を行う画像処理システムに関する。

背景技術

近年、美容や健康に対する関心が高まっており、例えば美容においては、皮膚のメラニン色素を抑制するホワイトニングが、審美への追求の一分野として、流行の兆しを見せている。

従来における肌の診断には、肌の表面を拡大してモニタ等で観察することができるよう構成された肌診断用カメラシステムが用いられており、例えば、皮膚科、エステティックサロン、美容カウンセリングなどで使用されている。これらの内の例えば皮膚科の場合には、皮溝や皮丘の画像を観察することにより、皮膚表面の特徴を捉えて診断し、カウンセリング等が行われている。

このような肌診断用カメラとしては、例えば特開平 8-149352 号公報に記載されたものが一例として挙げられる。該公報に記載の肌観察装置は、前方が開いたケースと、このケース内部に設けられた上記開口の中心を光軸とする光学系と、この光学系からの光学像が撮像面に結像する固体撮像素子と、上記開口の外側の被写体を上記ケース内部から上記開口を通して照明するために設けられ、光照射方向が上記開口側を向いて、かつ上記光軸を中心としてリング状に複数配置された発光色が青色の発光素子群と、を備えたものとなっている。

また、肌診断用カメラの他の例として、特開平 7-322103 号公報には、ケース本体の前方に開設された撮影窓に対向してケース内部に配置されたレンズ、およびこのレンズを介して入射した光学像を撮像する撮像素子と、上記ケース内部に設けられており、上記撮影窓側を照明するサークライン蛍光灯と、このサークライン蛍光灯の照明光を上記撮影窓から導出する場合、反射により進行角度

を調整する反射部と、上記撮影窓の周囲とほぼ同じ径で、撮影窓と同軸的にケース内部に配置され、軸方向へ移動自在な透明スライドパイプと、この透明スライドパイプの一部に取り付けられ、上記透明スライドパイプが上記軸方向へ移動するのに応答して、上記サークライン蛍光灯からの照明光が上記透明スライドパイプの透明部を介して上記撮影窓を通り抜けることを許容するが上記反射部を介して上記撮影窓を通り抜けることを遮光する第1の状態と、上記反射部を介して上記撮影窓を通り抜けることを許容するが上記透明スライドパイプを介して上記撮影窓を通り抜けることを遮光する第2の状態と、を実現する遮光リング部と、を備えた肌診断用テレビカメラ装置が記載されている。

また、歯科においては、人工歯を作成する場合などに患者の歯の色と違和感のない色に仕上げる必要がある。そこで、シェードガイドを用いて患者の歯と直接色の比較を行い判断することにより、いわば主観によって、歯の色に関するデータを取得するのが一般的である。

上述したような皮膚科や歯科などに限らず、例えば、自動車の塗装色、建物の塗装色、食料品の分光特性、衣料品の染色などの分野では、診断、検査、確認、判別などに利用するために、物体の色を正確に色再現する技術が求められている。

高精度な色再現を行うための従来の技術としては、例えば特開2000-152269号公報に記載されたような、外部照明下の被写体を、回転式のフィルターレット上に配列した多数の分光フィルタを用いて撮像することにより多バンドの画像データを取得し、被写体の分光スペクトルを高精度に推定して正確な色再現を行い得るようにした色再現システムが挙げられる。

しかしながら、上記特開2000-152269号公報に記載されたような色再現システムは、例えば実験室等で被写体のスペクトルデータを取得するために用いるものであって、固定型で重量が大きく、さらに外部照明による色再現処理を行っているために別途の照明センサが必要であり、上述したような各種の利用分野において運用上求められる小型軽量性やハンディ性を、そのままでは満たすことができない。

一方、皮膚科などには、従来よりハンディタイプの画像処理システムが存在し

ているが、これはいわゆるマルチバンドデータを取得するタイプのものではないために、高精度の色再現性に対する要求を満足するものとはなっていない。

本発明は上記事情に鑑みてなされたものであり、小型軽量で携帯可能な高色再現の画像処理システムを提供することを目的としている。

発明の開示

第1の発明は、被写体を照明するためのものであって少なくとも可視光域において複数のそれぞれ互いに独立して異なる分光分布特性の発光を行う複数の発光素子と、上記発光素子により照明された被写体像を結像する撮像光学系と、上記撮像光学系により結像された被写体像を撮像して画像信号を出力する撮像素子部と、上記複数の発光素子を分光分布特性に応じて選択的に点灯させて該点灯と上記撮像素子部による撮像を行わせる動作とを同期させて該複数の発光素子の選択を異ならせて複数回行わせることにより複数の被写体分光画像を取得するように制御する制御部と、を含む撮影装置と、上記画像信号から所望の画像演算を行う演算部を含む処理装置と、を具備した画像処理システムである。

また、第2の発明は、上記第1の発明において、上記制御部が、分光分布特性に従って、上記複数の発光素子から、1つ以上の発光素子を含む素子群を複数有してなるグループを設定し、設定したグループ内における複数の素子群の点灯順序を定めて、この点灯順序に従って各素子群の発光素子を点灯させることにより、上記選択的な点灯を行わせて、複数の被写体分光画像を取得するように制御するものである。

さらに、第3の発明は、上記第2の発明において、上記制御部が、上記グループを複数種類設定して、用途に応じて必要なグループを用いるように制御するものである。

第4の発明は、上記第3の発明において、上記制御部が、上記複数の発光素子から、可視光域内の青に属する発光素子の素子群と、可視光域内の緑に属する発光素子の素子群と、可視光域内の赤に属する発光素子の素子群と、で構成されるグループを設定し、撮像フレーム毎に各素子群の発光素子を順次点灯させて、上記撮像素子部により3原色カラー動画像を撮像させる制御をさらに行うものである。

る。

第５の発明は、上記第３の発明において、上記撮影装置が、少なくとも分光画像撮影動作の開始を指示入力するための撮影操作部をさらに含み、上記制御部は、上記撮影操作部から分光画像撮影動作の開始が指示入力されるのに応じて、上記複数の被写体分光画像を取得するための制御を行うものである。

第６の発明は、上記第５の発明において、上記撮影操作部が、押下式のボタンスイッチを有して構成され、上記制御部は、このボタンスイッチが押下された時に、上記グループを変更させるように制御するものである。

第７の発明は、上記第６の発明において、上記制御部が、上記ボタンスイッチが押下された時に、さらに、変更したグループの素子群の点灯タイミングを制御するものである。

第８の発明は、上記第１の発明において、上記制御部が、上記撮像素子部による撮像を、発光素子の点灯開始後に開始させるとともに、該発光素子が消灯される前に終了させるように制御するものである。

第９の発明は、上記第１の発明において、上記撮像素子部が、入射光を複数の波長帯域の光に分離する分光部と、この分光部により分光された複数の波長帯域の光を撮像する複数の撮像素子と、を有して構成されたものである。

第１０の発明は、上記第１の発明において、上記撮像素子部が、カラーフィルタアレイを備えたカラー撮像素子を有して構成されたものである。

第１１の発明は、上記第１の発明において、上記撮影装置が、上記発光素子の分光分布特性を検出するためのスペクトル検出センサをさらに有して構成されたものである。

第１２の発明は、上記第１の発明において、上記撮影装置が、環境光の分光分布特性を検出するためのスペクトル検出センサをさらに有して構成されたものである。

第１３の発明は、上記第１の発明において、上記撮影装置が、該被写体に一端部側が接するようになされた当て付け部をさらに有して構成されたものである。

第１４の発明は、上記第１３の発明において、上記当て付け部が、柔軟性を有する素材により略筒状に形成されたものである。

第 1 5 の発明は、上記第 1 3 の発明において、上記当て付け部が、外光の影響を排除または軽減する素材により構成されたものである。

第 1 6 の発明は、上記第 1 3 の発明において、上記当て付け部が、撮影装置の筐体に対して着脱可能となるように構成されたものである。

第 1 7 の発明は、上記第 1 の発明において、上記処理装置が、上記撮影装置により撮影された被写体分光画像を記憶するための画像メモリ部をさらに含み、上記演算部は、上記画像メモリ部に記憶された画像信号から所望の画像演算を行うものである。

第 1 8 の発明は、上記第 1 7 の発明において、上記演算部が、上記画像メモリ部に記憶された被写体分光画像に基づき、高度に色再現された被写体の画像を表示するための信号を演算するものである。

第 1 9 の発明は、上記第 1 8 の発明において、上記処理装置が、上記撮影装置により取得されるデータに基づき、高度に色再現された被写体の画像を表示するための信号を演算するのに必要なプロファイル情報を算出するものである。

第 2 0 の発明は、上記第 1 7 の発明において、上記演算部が、上記画像メモリ部に記憶された被写体分光画像に基づき、被写体に係る判別または解析を行いその結果を出力するものである。

第 2 1 の発明は、上記第 1 の発明において、上記撮像素子部が、撮像時のフレームレートを変更することができるように構成されたものである。

第 2 2 の発明は、上記第 1 の発明において、上記撮影装置が、少なくとも分光画像撮影動作の開始を指示入力するための撮影操作部をさらに含み、上記制御部は、上記撮影操作部から分光画像撮影動作の開始が指示入力されるのに応じて、上記複数の被写体分光画像を取得するための制御を行うものである。

図面の簡単な説明

図 1 は、本発明の第 1 の実施形態における画像処理システムの構成を示すブロック図。

図 2 は、上記第 1 の実施形態における L E D の配置例や構成例を示す図。

図 3 は、上記第 1 の実施形態における、C C D の分光感度特性および L E D の

発光スペクトルと、これら両方による分光特性と、を示す線図。

図 4 は、上記第 1 の実施形態の 6 バンド分光画像取得における各 LED の発光と撮像素子の画像取得との動作を示すフローチャート。

図 5 は、上記第 1 の実施形態の 6 バンド分光画像取得における各 LED の発光と撮像素子の画像取得との動作の様子を示すタイミングチャート。

図 6 は、上記第 1 の実施形態の 6 バンド分光画像取得における各フレームのバンド特性を示す線図。

図 7 は、上記第 1 の実施形態のモニタ用画像取得における各 LED の発光と撮像素子の画像取得との動作を示すフローチャート。

図 8 は、上記第 1 の実施形態のモニタ用画像取得における各 LED の発光と撮像素子の画像取得との動作の様子を示すタイミングチャート。

図 9 は、上記第 1 の実施形態のモニタ用画像取得における各フレームのバンド特性を示す線図。

図 10 は、上記第 1 の実施形態における、6 原色の LED が各 3 つずつ設けられているときの点灯のさせ方の例を示す図。

図 11 は、上記第 1 の実施形態において、筐体の投射口に対して着脱可能に構成された当て付け部を示す斜視図。

図 12 は、上記第 1 の実施形態の処理装置におけるディスプレイに表示するための色再現を行う構成を示すブロック図。

図 13 は、上記第 1 の実施形態において、取得された被写体分光画像に基づき被写体に関する画像判別を行うための構成例を示すブロック図。

図 14 は、上記第 1 の実施形態の処理装置において入力プロファイルを生成する構成例を示すブロック図。

図 15 は、上記第 1 の実施形態の撮影装置の LCD モニタにおける表示例を示す図。

図 16 は、上記第 1 の実施形態の画像処理システムを使用するときの様子の一例を示す図。

図 17 は、本発明の第 2 の実施形態における画像処理システムの構成を示すブロック図。

図 18 は、上記第 2 の実施形態において、フルモードと読み出し 2 倍速モードとにおける読み出しの様子を示すタイミングチャート。

図 19 は、上記第 2 の実施形態において、2/4 ライン 2 倍速モードと 2/8 ライン 4 倍速モードとにおける読み出されるラインの様子を示す図。

図 20 は、上記第 2 の実施形態において、撮影モードを設定する際の動作を示すフローチャート。

図 21 は、本発明の第 3 の実施形態における画像処理システムの構成を示すブロック図。

図 22 は、上記第 3 の実施形態の画像処理システムを使用するときの様子の一例を示す図。

図 23 は、上記第 3 の実施形態における、LED の発光スペクトルとカラーフィルタアレイを通した CCD の分光感度特性とを示す線図。

図 24 は、上記第 3 の実施形態において、6 バンドの分光画像を生成するときのフレーム毎の分光画像の分光特性を示す線図。

図 25 は、上記第 3 の実施形態において、モニタ用画像を生成するときのフレーム毎の分光画像の分光特性を示す線図。

図 26 は、上記第 3 の実施形態の 6 バンド分光画像取得における各 LED の発光と撮像素子の画像取得との動作を示すフローチャート。

図 27 は、上記第 3 の実施形態の 6 バンド分光画像取得における各 LED の発光と撮像素子の画像取得との動作の様子を示すタイミングチャート。

図 28 は、上記第 3 の実施形態のモニタ用画像取得における各 LED の発光と撮像素子の画像取得との動作を示すフローチャート。

図 29 は、上記第 3 の実施形態のモニタ用画像取得における各 LED の発光と撮像素子の画像取得との動作の様子を示すタイミングチャート。

図 30 は、上記第 3 の実施形態における、8 バンドの分光画像を生成するときの LED の発光スペクトルとカラーフィルタアレイを通した CCD の分光感度特性とを示す線図。

図 31 は、上記第 3 の実施形態において、8 バンドの分光画像を生成するときのフレーム毎の分光画像の分光特性を示す線図。

図 3 2 は、上記第 3 の実施形態の 8 バンド分光画像取得における各 L E D の発光と撮像素子の画像取得との動作を示すフローチャート。

図 3 3 は、上記第 3 の実施形態の 8 バンド分光画像取得における各 L E D の発光と撮像素子の画像取得との動作の様子を示すタイミングチャート。

図 3 4 は、上記第 3 の実施形態において、モニタ用画像を生成するときのフレーム毎の分光画像の分光特性を示す線図。

図 3 5 は、上記第 3 の実施形態のモニタ用画像取得における各 L E D の発光と撮像素子の画像取得との動作を示すフローチャート。

図 3 6 は、上記第 3 の実施形態のモニタ用画像取得における各 L E D の発光と撮像素子の画像取得との動作の様子を示すタイミングチャート。

図 3 7 は、本発明の第 4 の実施形態における画像処理システムの構成を示すブロック図。

図 3 8 は、上記第 4 の実施形態において、スペクトル検出センサを複数配設した画像処理システムを使用するときの様子の一例を示す図。

図 3 9 は、上記第 4 の実施形態におけるスペクトル検出センサの構成例を示す断面図。

図 4 0 は、上記第 4 の実施形態のスペクトル検出センサに接続される光ファイバの入射端の様子を示す断面図。

図 4 1 は、上記第 4 の実施形態のスペクトル検出センサに接続される光ファイバの入射端の近傍にセンサ用光学系を配設した構成例を示す断面図。

図 4 2 は、上記第 4 の実施形態において、環境光取得用に設けられたスペクトル検出センサに接続される光ファイバの入射端の様子を示す断面図。

発明を実施するための最良の形態

以下、図面を参照して本発明の実施の形態を説明する。

図 1 から図 1 6 は本発明の第 1 の実施形態を示したものであり、図 1 は画像処理システムの構成を示すブロック図である。

この画像処理システムは、可視光域において互いに独立して異なる複数の波長帯域の照明光により被写体を照明して被写体分光画像を撮影可能な撮影装置 1 と

、この撮影装置 1 と接続されていて該撮影装置 1 から出力される被写体分光画像を処理する処理装置 2 と、を有して構成されていて、該処理装置 2 は、必要に応じてネットワーク 3 に接続することができるように構成されている。

上記撮影装置 1 は、本実施形態においては、6 種類の波長帯域の照明光（6 原色の照明光）を被写体に順次照射して、6 枚の被写体分光画像を静止画として取り込む撮像と、6 原色の照明光から 1 以上の照明光を各選択して RGB の 3 色の照明光としこれらを順次に照射することにより面順次式の動画として取り込む撮像と、を行うことができるようになっている。

上記撮影装置 1 は、後述する照明光を被写体に投写するとともに被写体からの反射光を入射するための投射口 5 a を備えた筐体 5 と、この筐体 5 の投射口 5 a 側に着脱可能に取り付けられており該投射口 5 a を介して被写体に投射する照明光に外光が混入することのないように遮光するための柔軟性を有する素材により略筒状に形成された当て付け部 4 と、上記筐体 5 内に組み込まれていて点灯されることにより被写体を照明するための照明光を発光する発光素子である第 1 LED 6 a ～第 6 LED 6 f と、上記筐体 5 内に組み込まれていてこれら第 1 LED 6 a ～第 6 LED 6 f により照明された被写体像を結像するための撮像光学系 7 と、この撮像光学系 7 により結像された被写体像を撮像して画像信号を出力する撮像素子部に含まれる撮像素子たる CCD 8 と、この CCD 8 から出力されるアナログ信号をデジタル信号に変換する A/D 変換器 9 と、この A/D 変換器 9 から出力され後述するバス 10 を介して伝送される被写体分光画像を一旦記憶するとともに後述する CPU 18 による作業領域としても用いられるメモリ 11 と、使用者が分光画像撮影動作の開始を指示入力したり動画像撮影動作の開始や終了を指示入力したりするための各種の操作スイッチや操作ボタンを含んでなる撮影操作部たる操作スイッチ 14 と、この操作スイッチ 14 からの指示入力を後述する CPU 18 に伝達するとともに該 CPU 18 からの指令により上記第 1 LED 6 a ～第 6 LED 6 f の発光制御に関する命令等を行ったりこの撮影装置 1 の撮像動作に関する制御を行ったりするカメラ制御 I/F 12 と、このカメラ制御 I/F 12 からの指令に基づき上記第 1 LED 6 a ～第 6 LED 6 f の発光開始タイミングや発光終了タイミングなどの発光動作に係る制御を行う LED ドライバ

13と、上記CCD8により撮像される動画像や上記メモリ11に記憶された被写体分光画像（静止画像）を後述するLCDモニタ16に表示するための制御を行うモニタI/F15と、このモニタI/F15から出力される画像を表示するためのLCDモニタ16と、上記メモリ11に記憶された被写体分光画像や後述するCPU18からの制御データ等を上記処理装置2に出力しあるいは該処理装置2からの通信データを入力するための外部I/F17と、上記A/D変換器9、メモリ11、カメラ制御I/F12、モニタI/F15、外部I/F17、後述するCPU18等を互いに接続するバス10と、上述した各回路を含むこの撮影装置1を統括的に制御する制御部たるCPU18と、を有して構成されている。

上記処理装置2は、例えばパーソナルコンピュータ等であり、上記外部I/F17から出力される被写体分光画像を受信して、後述するように入力プロファイルを用いてXYZ三刺激値を算出し、さらにこのXYZ三刺激値からディスプレイプロファイルを用いて被写体を与えると推定されるXYZ三刺激値とほぼ同一のXYZ三刺激値を後述するディスプレイ22により得られるような表示用信号を生成する演算装置21と、この演算装置21から出力される表示用信号により高度な色再現がなされた画像を表示するディスプレイ22と、を有し、さらに、特に図示はしないが上記ネットワーク3に接続するためのネットワークインタフェース等も備えて構成されている。

なお、上記撮影装置1と処理装置2とは、有線により接続されていても良いし、例えばBluetoothや無線LANなどの無線により接続されていても構わないし、あるいは一体に構成されていても良い。

図3は、CCD8の分光感度特性およびLED6a～6fの発光スペクトルと、これら両方による分光特性と、を示す線図である。

発光素子である上記第1LED6a～第6LED6fは、図3（A）に示すように、それぞれ異なる独立した発光スペクトルを有したものとなっていて、曲線fL1により示される第1LED6aの光は例えばやや紫がかった青、曲線fL2により示される第1LED6bの光は例えばやや緑がかった青、曲線fL3により示される第1LED6cの光は例えばやや青がかった緑、曲線fL4により示される

第1 LED 6 dの光は例えばやや黄がかった緑、曲線 f L5により示される第1 LED 6 eの光は例えばオレンジ、曲線 f L6により示される第1 LED 6 fの光は例えば赤、などとなっている。

なお、図示の例では、第1 LED 6 a～第6 LED 6 fの各発光スペクトルは、互いに重なり合うことなく完全に分離されているが、一部が重なり合うような発光スペクトルであっても構わない。もちろん、LEDの種類も6種類に限るものではなく、適宜の種類数のLEDの組み合わせを採用することができる。

ここに、各LEDによる照明光のスペクトル配列は、均等波長間隔（波長方向に均等な間隔で例えばピークが並ぶもの）、均等波長比間隔（波長方向に一定の比率間隔でピーク等が並ぶもの）、特定目的用の特定配列（特定の目的に沿って波長方向に特定の配列でピーク等が並ぶもの）、特定波長色通倍設定（特定波長を基本波長として通倍波長位置にピーク等が並ぶもの）、特定偏光色配置（波長方向に沿って並ぶピークで表される各光が特定方向に偏光しているもの）、可視域外光配置（波長方向に沿って並ぶピークで表される光が可視域外の領域にも達しているもの）等の何れであっても採用することが可能であり、使用目的に最も合致するものを選ぶようにすると良い。

また、ここでは、発光素子として、軽量、小型、かつ比較的安価で入手容易でありながら高輝度の半導体発光素子であるLEDを用いているが、これに限らず、例えばLD（レーザダイオード）等の半導体レーザーやその他の発光素子を用いることも可能である。

一方、上記CCD 8は、本実施形態においては、モノクロタイプのCCDを使用しており、そのセンサ感度は、図3（A）の曲線 f S に示すように可視光域をほぼカバーするようなものとなっている。なお、ここでは撮像素子としてモノクロタイプのCCDを用いているが、これに限るものではなく、後述する実施形態において述べるようにカラータイプのCCDを用いても良いし、CCDに限らずCMOSタイプやその他の各種の撮像素子を広く使用することが可能である。

そして、上記第1 LED 6 a～第6 LED 6 fによって照明された被写体の像をこのCCD 8により受光するときの分光感度特性は、例えば図3（B）に示す曲線 f SL1 ～ f SL6 のようになっている。このようなトータルの分光感度特性の

波長による相異は、後段で電氣的に処理されたり、あるいは撮影装置 1 に係る入力プロファイルなどとして補正されたりすることになる。

また、図 2 は L E D の配置例や構成例を示す図である。

図 2 (A) は、6 種類の原色で構成される上記第 1 L E D 6 a ～第 6 L E D 6 f を、リング状に順次 3 セット (各色 3 個ずつ) 配置した例を示している。なお、図示の配置順は一例を示したのみであり、これに限らず、逆順やランダム配置などの任意の配列を広く適用することが可能である。

次に、図 2 (B) は、リング状に発光部 6 A を複数配置していて、かつ、各発光部 6 A 内に 6 種類の原色を包含するように上記第 1 L E D 6 a ～第 6 L E D 6 f を配置した例を示している。なお、図示の例では、1 つの発光部 6 A 内に 6 原色の全てを配置しているが、これに限らず、3 原色ずつを配置するなどの 6 原色が複数の発光部 6 A に分かれるようにしても構わない。

さらに、図 2 (C) は、上記第 1 L E D 6 a ～第 6 L E D 6 f のそれぞれにファイババンドル 6 B の一端側 6 B a ～6 B f を接続し、他端側 6 B g をリング状に形成したものである。これにより、L E D 6 a ～6 f から発光された照明光は、バンドルファイバ端 6 B a ～6 B f に入射する。バンドルファイバ端は複数のさらに細いファイバから構成されており、バンドルファイバの射出部 6 B g では各 L E D からのこれら細いファイバは互いに混ぜ合わされてリング状の均一な光源として被写体に照射され、被写体による全反射の影響を低減することができる。

なお、L E D の配置は、図 2 に示したような例に限らず、C C D 8 による撮像に支障を来すことのない限りは、リング状配置、十字状配置、矩形状配置、ランダム配置などの適宜の配置を採用することが可能である。

次に、この撮影装置 1 では、2 種類の画像取得モードがあることについて説明する。

上述したように、この撮影装置 1 は、通常の R G B 画像としての動画と、高度な色再現を可能とする 6 原色の被写体分光画像としての静止画と、を撮像することができるようになっており、動画はモニタ用画像取得モードにおいて、静止画は分光画像取得モードにおいて、それぞれ撮像されるようになっている。

これら２つのモードは、上記操作スイッチ１４に含まれている押下式のボタンスイッチでなる撮影ボタン１４ａ（図１６参照）を押すことにより切り替えられるように構成されている。

すなわち、まず、電源スイッチをオンにするなどによりモニタ用画像取得モードが自動的に設定され、被写体像が動画としてＬＥＤモニタ１６上に表示される。この状態で、分光画像を撮影したい被写体部分を探して、撮影装置１の位置決めを行う。こうして、撮影したい被写体部分が撮像範囲内に入って位置決めがなされたところで、上記撮影ボタン１４ａ（図１６参照）を押すことにより、分光画像取得モードに切り替って被写体分光画像が静止画として取得される。

被写体分光画像が取得された後は、再びモニタ用画像取得モードに復帰して、次に分光画像を取得したい被写体部分を探することができるような構成となっている。

なお、図示はしないが、別途の設定を行うことにより、取得した分光画像を用いた色再現表示や分光画像を解析した結果の表示などを、分光画像の取得直後に該ＬＣＤモニタ１６、あるいは上記ディスプレイ２２に行うことも可能となっている。

次に、図４から図６を参照して、画像処理システムにおける分光画像取得モードの動作について説明する。図４は６バンド分光画像取得における各ＬＥＤの発光と撮像素子の画像取得との動作を示すフローチャート、図５は６バンド分光画像取得における各ＬＥＤの発光と撮像素子の画像取得との動作の様子を示すタイミングチャート、図６は６バンド分光画像取得における各フレームのバンド特性を示す線図である。

撮影ボタン１４ａ（図１６参照）が押されることによりモニタ用画像取得モードから分光画像取得モードに切り替わると、分光画像の撮像を開始するか否かを判断する（ステップＳ１）。撮影ボタン１４ａの押圧により直ちに分光画像の撮像が開始される場合にはこの判断動作を行わなくても構わないが、撮影ボタン１４ａが例えば２段式の押圧ボタンで構成されていて、１段目の半押し状態で焦点調節や露光量調節等を行い、２段目の全押し状態で露光を開始する場合には、このステップＳ１において２段目が押圧されたか否かを判断する。

次に、変数 n に 1 を設定して（ステップ S 2）、第 n LED を点灯させる（ステップ S 3）。ここでは $n = 1$ に設定されているために、第 1 LED 6 a を点灯させることになる。第 1 LED 6 a による照明光は、筐体 5 の投射口 5 a を介して被写体に照射される。このときに、当て付け部 4 が被写体の表面に柔軟に当て付いて外光の侵入を防いでいるために、被写体には第 1 LED 6 a からの照明光のみが投射されることになる。被写体からの反射光は、撮像光学系 7 により CCD 8 の表面に結像される。

この第 1 LED 6 a の点灯が開始された後に、CCD 8 による撮像、より詳しくは電荷の蓄積、を開始する（図 5 参照）（ステップ S 4）。

CCD 8 による撮像が終了したら、その後に第 1 LED 6 a を消灯し（ステップ S 5）、CCD 8 から画像データを読み出して、上記 A/D 変換器 9 によりデジタルデータに変換させ、バス 10 を介してメモリ 11 内の所定の記憶領域（第 n メモリ：ここでは第 1 メモリ）に記憶させる（ステップ S 6）。6 バンド分光画像を撮像する場合には、メモリ 11 内に第 1 メモリから第 6 メモリまでの記憶領域が設けられており、これらの記憶領域に各分光画像が順次格納されるようになっている。

その後、 n をインクリメントする（ステップ S 7）。ここでは n が 1 から 2 にインクリメントされることになる。

n が 7 以上になったか否かを判断して（ステップ S 8）、ここではまだ 2 であるために上記ステップ S 3 に戻り、第 2 LED 6 b を点灯して上述したようなステップ S 3 からステップ S 7 までの動作を行う。

このようにして、 $n = 6$ のときに第 6 LED 6 f を点灯してステップ S 6 までの動作を終了すると、図 6 に示すようなバンド特性の 6 バンド分光画像が取得され、メモリ 11 に保存されたことになる。そして、ステップ S 7 で $n = 7$ にインクリメントされるために、ステップ S 8 の判断において n が 7 に達したとして、この 6 バンド分光画像取得の動作を終了する。

なお、図示しないが、発光素子（LED）と撮像素子（CCD）による画像取得タイミングは、前述に限らず、撮像素子の画像取得開始後に発光素子を点灯し、発光素子の消灯後に撮像素子による画像取得を終了する、などでも同等である。

。

次に、図 7 から図 9 を参照して、画像処理システムにおけるモニタ用画像取得モードの動作について説明する。図 7 はモニタ用画像取得における各 LED の発光と撮像素子の画像取得との動作を示すフローチャート、図 8 はモニタ用画像取得における各 LED の発光と撮像素子の画像取得との動作の様子を示すタイミングチャート、図 9 はモニタ用画像取得における各フレームのバンド特性を示す線図である。

このモニタ用画像取得モードは、第 1 LED 6 a ～第 6 LED 6 f による 6 原色の照明光から、青（B）の範疇に相当する第 1 LED 6 a および第 2 LED 6 b を発光させる状態と、緑（G）の範疇に相当する第 3 LED 6 c および第 4 LED 6 d を発光させる状態と、赤（R）の範疇に相当する第 5 LED 6 e および第 6 LED 6 f を発光させる状態と、を順次取らせることにより、RGB 画像を面順次式で動画像として取得するモードとなっている。

なお、ここでは、一般の RGB 画像用を想定して発光原色を選定しているが、これに限らず、特殊な用途等に応じた他の発光原色の選定も行うことが可能である。

電源スイッチがオンされることによりモニタ用画像取得モードが設定されるか、あるいは分光画像取得モードが終了することによりモニタ用画像取得モードに復帰すると、モニタ用画像の撮像を開始するのを待機する（ステップ S 1 1）。

ここでは直ちに撮像が開始され、変数 n に 1 を設定して（ステップ S 1 2）、第 n LED および第 $n + 1$ LED を点灯させる（ステップ S 1 3）。ここでは $n = 1$ に設定されているために、第 1 LED 6 a および第 2 LED 6 b を点灯させることになる。

これら第 1 LED 6 a および第 2 LED 6 b の点灯が開始された後に、CCD 8 による撮像を開始する（図 8 参照）（ステップ S 1 4）。

CCD 8 による撮像が終了したら、その後に第 1 LED 6 a および第 2 LED 6 b を消灯し（ステップ S 1 5）、CCD 8 から画像データを読み出して、上記 A/D 変換器 9 によりデジタルデータに変換させ、バス 1 0 を介してメモリ 1 1 内の所定の記憶領域（第 n メモリ：ここでは第 1 メモリ）に記憶させる（ステッ

プ S 1 6)。

その後、n を 2 だけ増加させる (ステップ S 1 7)。ここでは n が 1 から 3 に増加されることになる。

n が 7 以上になったか否かを判断して (ステップ S 1 8)、ここではまだ 3 であるために上記ステップ S 1 3 に戻り、第 3 L E D 6 c および第 4 L E D 6 d を点灯して、上述したようなステップ S 1 3 からステップ S 1 7 までの動作を行う。

これにより n = 5 となって、さらに上記ステップ S 1 3 に戻って第 5 L E D 6 e および第 6 L E D 6 f を点灯してステップ S 1 6 までの動作を終了すると、図 9 に示すようなバンド特性の R G B 画像が B, G, R の順に取得され、メモリ 1 1 の第 1 メモリ、第 3 メモリ、第 5 メモリに各保存されたことになる。そして、ステップ S 1 7 で n = 7 にインクリメントされるために、ステップ S 1 8 の判断において n が 7 に達したと判断される。

こうして、R G B 画像を取得した後に、上記ステップ S 1 1 に戻って、次の R G B 画像を取得するかを判断する。モニタ用画像取得モードが引き続いて設定されている場合には、次の R G B 画像の取得を行い、これを連続的に繰り返すことで、R G B 動画像を得ることができる。

なお、図示しないが、発光素子 (L E D) と撮像素子 (C C D) による画像取得タイミングは、前述に限らず、撮像素子の画像取得開始後に発光素子を点灯し、発光素子の消灯後に撮像素子による画像取得を終了する、などでも同等である。

このようにしてメモリ 1 1 に記憶された画像データは、その後に読み出されてモニタ表示用の画像信号に変換され、モニタ I / F 1 5 を介して L C D モニタ 1 6 に出力されて表示される。また、この画像処理システムの設定を変更することにより、処理装置 2 のディスプレイ 2 2 に表示することも可能となっている。

なお、ここでは照度を確保するために、6 原色の L E D を 2 つずつに分けて 3 つの素子群、つまり R 素子群、G 素子群、B 素子群でなるグループを構成したが、これに限らず、例えば、B (青) については第 1 L E D 6 a を、G (緑) については第 3 L E D 6 c を、R (赤) については第 5 L E D 6 e をそれぞれ発光さ

せる、各 1 色の発光を行うようにしても良い。このときには、これらの LED の分光特性が、RGB 発光に適するようなものを選定するようにすると良い。

さらに、単一あるいは複数の特定の原色の LED のみを点灯して、モノクロモニタ画像を取得することにより、モニタ表示を高速に行うことも可能である。

図 10 は、6 原色の LED が各 3 つずつ設けられているときの点灯のさせ方の例を示す図である。

発光モードとしては、全ての LED を点灯する場合、1 つの原色の 1 つの LED のみを単一点灯する場合、1 つの原色について 3 つの LED を点灯させる単一原色点灯の場合、6 原色の LED を各 1 個ずつ点灯させる場合、18 個でなる 6 原色の LED の内の例えば青 (B) に属する 6 個の LED を点灯させる場合、18 個でなる 6 原色の LED の内の例えば緑 (G) に属する 6 個の LED を点灯させる場合、18 個でなる 6 原色の LED の内の例えば赤 (R) に属する 6 個の LED を点灯させる場合、18 個でなる 6 原色の LED の内の例えば青 (B) に属する 3 個の LED を点灯させる場合、18 個でなる 6 原色の LED の内の例えば緑 (G) に属する 3 個の LED を点灯させる場合、18 個でなる 6 原色の LED の内の例えば赤 (R) に属する 3 個の LED を点灯させる場合、などが例として挙げられる。こうして、色毎にまとめた素子群を同時に発光させたり、位置毎にまとめた素子群を同時に発光させたりすることができるようになっている。

なお、本実施形態の撮影装置 1 は、被写体を撮像するときに、接触で行うことも非接触で行うことも何れも可能であるが、画像を正確に色再現するためには、この撮影装置 1 以外から発生する光の影響を受けることのないようにする必要がある。

従って、非接触で被写体を撮像する場合には、外光照明を消灯する必要がある。

また、塗装面、皮膚面、近接画像などの接触で撮影を行うことができる被写体の場合には、上述したように、略円筒状に形成された当て付け部 4 を被写体に柔軟に当て付けることができるために (図 1 参照)、遮光性を確保することが可能となる。

当て付け部 4 は、接触式である場合に用いるものであるために、被写体が人体

である場合などには細菌汚染や汚れなどを防ぐ衛生の観点から、また、被写体が塗装板などである場合には汚れが転写するのを防止する観点などから、図 1 1 に示すように、着脱可能でディスプレイザブルな部材となっている。図 1 1 は、筐体 5 の投射口 5 a に対して着脱可能に構成された当て付け部 4 を示す斜視図である。

この当て付け部 4 は、被写体が高温または低温のものである場合に向けて断熱素材により形成したり、被写体が静電気を帯びる性質のものであったり導電性を有する電気関連のものであったりする場合に向けて絶縁性素材により形成したり、被写体が溶液が浸漬しているものである場合に向けて防溶液性の素材により形成しかつ照明光を投影し反射光を受光するためのガラス窓などを形成したりすることが可能である。当て付け部 4 は着脱可能な単体の部品であるために、このような各種の素材で種々の形状に形成するのを容易に行うことができる。さらに、被写体の表面を肉眼で観察するために、当て付け部 4 に開閉可能な観察用窓等を設けることも容易に可能である。

なお、本実施形態において、LED により発光される複数の原色の内の、特定の一または複数の原色を用いることによって、特定用途の検査や判別に利用することも可能である。

続いて、処理装置 2 における色再現について説明する。

上述したような撮影装置 1 における撮像動作によりメモリ 1 1 内に記録された被写体分光画像は、外部 I / F 1 7 を介して処理装置 2 に送信され、該処理装置 2 に内蔵される画像メモリ部 3 2 (図 1 2 参照) に記録されて、所定のソフトウェアによって動作する演算装置 2 1 により、色再現や画像処理が行われるようになっている。その処理結果は、該処理装置 2 のディスプレイ 2 2 に表示されるか、あるいは上記 LCD モニタ 1 6 に転送されて表示される。

図 1 2 は、処理装置 2 におけるディスプレイ 2 2 に表示するための色再現を行う構成を示すブロック図である。

この処理装置 2 は、撮影装置 1 から入力される被写体分光画像が上記第 1 LED 6 a ~ 第 6 LED 6 f の何れにより照明されたものであるかに応じて画像メモリ部 3 2 内の記憶領域を振り分ける画像振り分け部 3 1 と、この画像振り分け部

3 1により振り分けられた被写体分光画像をそれぞれ記憶する記憶領域である第1メモリ3 2 a～第6メモリ3 2 fを備えた画像メモリ部3 2と、この画像メモリ部3 2に記憶された被写体分光画像を読み出してディスプレイ2 2において高度に色再現された画像を表示するためのディスプレイ画像データを算出し出力する色再現演算部3 3と、を有し、これらは例えば図1に示した演算装置2 1に含まれていて、さらに、上記色再現演算部3 3から出力されるディスプレイ画像データに基づき高度に色再現された画像を表示する上記ディスプレイ2 2を有して構成されている。

上記色再現演算部3 3は、撮影装置1に関するプロファイルを記憶する入力プロファイル記憶部3 3 bと、上記画像メモリ部3 2の第1メモリ3 2 a～第6メモリ3 2 fに記憶された被写体分光画像を読み出して上記入力プロファイル記憶部3 3 bに記憶されている入力プロファイルと内部に設定された所定の等色関数とを用いて推定演算を行うことによりXYZ三刺激値の画像データを生成するXYZ推定演算部3 3 aと、上記ディスプレイ2 2に関するプロファイルを記憶するディスプレイプロファイル記憶部3 3 dと、上記XYZ推定演算部3 3 aにより推定されたXYZ三刺激値の画像データと上記ディスプレイプロファイル記憶部3 3 dに記憶されているディスプレイプロファイルとを用いて演算を行うことにより上記ディスプレイ2 2に出力するためのディスプレイ画像データを生成するディスプレイ値変換部3 3 cと、を有して構成されている。

上記入力プロファイル記憶部3 3 bに記憶されている入力プロファイルは、例えば特開2 0 0 0－3 4 1 4 9 9号公報に記載されているようなものであって、撮像に用いたCCD8の分光感度を含む撮影装置1の特性や設定（画像入力装置）、被写体を撮影するときの照明光のスペクトルデータ（撮影照明光情報）、生成した被写体画像を観察するディスプレイ2 2が設置されている場所の照明光のスペクトルデータ（観察照明光情報）、撮影した被写体の分光反射率の統計的性質等の情報（被写体特性情報）、等の情報に基づき算出されたものである。

図1 4は、処理装置2において入力プロファイルを生成する構成例を示すブロック図である。

上記入力プロファイルは、図1 4に示すように、撮影装置1から取得した各デ

ータ等に基づき処理装置 2 において生成するようにしても良い。

撮影装置 1 において取得されるデータとしては、照明光スペクトルデータ、カメラ特性データ、被写体特性データなどが例として挙げられる。

上記照明スペクトルデータは、例えば被写体を撮像するときの照明に関するスペクトルデータであり、接触式である場合には撮影装置 1 に内蔵した各 LED 6 a ~ 6 f のスペクトルデータとなる。非接触式の場合には、さらに、被写体を撮影する場合の外部照明のスペクトルデータなども含むことになる。

上記カメラ特性データは、フォーカス値などを含む撮影光学系 7 の特性、CCD 8 の撮像特性、シャッタ速度、絞り値、などの諸特性を含んで構成されている。

上記被写体特性は、被写体が例えば歯、皮膚、塗料などである場合の分光統計データ等で構成されていて、高精度な入力プロファイルを作成するために、操作スイッチ 1 4 などに被写体指定操作部を設けて、被写体を指定するための被写体指定信号を入力するようにしても良い。

これらのデータに基づいて入力プロファイルを生成する処理装置 2 の構成は、図 1 4 に示すように、上記照明スペクトルデータ、カメラ特性データ、被写体特性データを読み込んで演算を行うことにより入力プロファイルを生成する入力プロファイル演算部 3 3 e と、この入力プロファイル演算部 3 3 e により生成された入力プロファイルを記憶する上記入力プロファイル記憶部 3 3 b と、を有して構成されている。

このような構成により、処理装置に接続される撮影装置 1 を異なる個体、機種などのものに変更（撮影光学系 7 の変更等）したり、撮影を行う環境照明が変化したり、撮影対象となる被写体を様々に変化させたりしても、適応的に、高度な色再現を行うことが可能となる。

また、上記ディスプレイプロファイル記憶部 3 3 d に記憶されているディスプレイプロファイルは、ディスプレイ 2 2 の表示原色値（例えばディスプレイ 2 2 が RGB モニタである場合には RGB 原色値）の色度値、ディスプレイ 2 2 のトーンカーブ、等の情報に基づき算出されたものである。なお、ディスプレイは、特開 2 0 0 0 - 3 3 8 9 5 0 号公報に記載されているような多原色の色再現シス

テムを用いても構わない。

また、図 1 3 は、取得された被写体分光画像に基づき被写体に関する画像判別を行うための構成例を示すブロック図である。

上記画像メモリ部 3 2 の第 1 ～第 6 メモリ 3 2 a ～3 2 f に記憶された被写体分光画像は、画像判別演算部 3 4 により読み出されて被写体に関する画像判別が行われ、その判別結果が出力されて上記ディスプレイ 2 2 に表示されるようになっている。また、画像の判別演算がネットワークを介して行われ、結果が LCD モニタ 1 6 に表示されるように構成されていても構わない。

上記画像判別演算部 3 4 は、被写体に関する各種の分類／判定／診断／解析などを行うための判別関数を記憶する判別関数記憶部 3 4 b と、上記画像メモリ部 3 2 の第 1 ～第 6 メモリ 3 2 a ～3 2 f に記憶された 6 枚の被写体分光画像の全部またはその内から選択される 1 枚以上の被写体分光画像を、この判別関数を用いて演算することにより判別結果を算出し上記ディスプレイ 2 2 に表示するための判別結果表示用画像データを生成する判別演算部 3 4 a と、を有して構成されている。

なお、上記判別関数は、この画像処理システムをどのような用途に用いるかによって、種々の置き換えを行うことが可能である。例えば、歯科に限定して、歯の白さの等級判定や、色あい判別、皮膚科に限定して、皮膚表面の皮溝や皮丘の相関、エントロピー解析などに置き換えることができる。従って、上記判別関数記憶部 3 4 b を、書き換え可能または追記可能な記憶媒体により構成して、用途に応じて使用する判別関数を書き加え、あるいは書き換えるようにすると良い。このような判別関数の具体的な例としては、特開平 7 - 1 2 0 3 2 4 号公報に記載されたような処理を行う関数を例に挙げる事ができる。

この図 1 3 に示す画像判別演算部 3 4 は、上記図 1 2 に示した色再現演算部 3 3 に代えて処理装置 2 に備えさせるようにしても良い。あるいは、図 1 2 に示した色再現演算部 3 3 とともに該処理装置 2 内に設けて、これらにより処理を並列して同時に行わせたり、または、必要なものだけを選択的に切り替えて処理を行わせるようにしても構わない。

次に、図 1 5 は、撮影装置 1 の LCD モニタ 1 6 における表示例を示す図であ

る。

LCDモニタ16は、例えば図15(A)に示すように、撮影装置1の筐体5の背面側の、把持部5bの上部に配設されていて、図15(B)や図15(C)に示すような画像を表示するようになっている。なお、ここでは、手を被写体として撮像している例を示している。

まず、図15(B)は、上記モニタ用画像取得モードにより撮像された動画像を表示しているときの様子を示しており、これにより、LEDモニタ16がファインダとしての機能を果たすようになっている。

次に、図15(C)は、例えば上記画像判別演算部34による被写体画像の判別結果を表示している様子を示している。ここでは、被写体のID番号（例えば医療分野の診断支援システムにおける患者番号など）と、画像判別により得られた数値解析結果のグラフ（例えば治療経過など）と、が表示されている。LCDモニタ16には、これらに限らず、色再現画像、患者カルテ、各種データ、図表などの、種々の情報を表示することが可能となっている。

こうして、上記LCDモニタ16は、撮影部位を選択するときのファインダとして機能したり、色再現結果や分類／判定／診断／解析などの結果を表示するときのモニタとして機能したりするようになっている。

一方、処理装置2のディスプレイ22は、ハンディタイプの撮影装置1に設けられたLCDモニタ16よりも大面積で高精細なタイプのものである場合が多いために、該処理装置2において目的に応じて実行される処理ソフトウェアの、起動表示、条件設定表示、被写体IDなどの情報を入力するためのGUI表示や、患者の経歴表示、前回情報等の被写体情報表示、処理結果表示などを行うようにしても良い。

上記ネットワーク3には、例えば外部データベースが接続されており、この外部データベースから被写体情報を処理装置2に取得したり、あるいは、処理装置2において行った処理結果を外部データベースへ格納するなどを行うようにしても良い。このときには、セキュリティーを確保するために、処理装置2と外部システムとをネットワーク3を介して接続する際に相互認証を行ったり、被写体データにセキュリティーレベルを設けてレベルに応じた認証を行ったりするように

構成することも可能である。

次に、図 16 は、画像処理システムを使用するときの様子の一例を示す図である。

上記撮影装置 1 は、軽量小型となるように構成されており、例えば片手で把持部 5 b を把持して、撮像系が設けられた筐体 5 の先端側を、当て付け部 4 を介して被写体の撮影対象部位に当てることにより、撮像を行うことができるようになっている。

上記当て付け部 4 は、上述したように、着脱可能でディスプレイな部材となっていて、外部からの光が被写体の撮影対象部位に当たるのを遮蔽している。

上記把持部 5 b の上部、例えば人差指で操作可能な位置に、上記操作スイッチ 14 に含まれる撮影ボタン 14 a が設けられており、上記 LCD モニタ 16 で撮影しようとする部位を特定した後に、この撮影ボタン 14 a を押下することにより、上述したようにモニタ用画像取得モードから分光画像取得モードに移行して、分光画像の撮像が行われるようになっている。

取得された分光画像は、処理装置 2 においてデータ処理が行われディスプレイ 22 に表示されるが、必要に応じて設定等を行うことにより、撮影装置 1 の LCD モニタ 16 に処理装置 2 における処理結果を表示するようにしても良いのは上述した通りである。

なお、この図 16 に示す例においては、処理装置 2 を、ディスプレイ付きのノート型のパーソナルコンピュータとして図示している。このような場合には、ノート型のパーソナルコンピュータに備えられている RS-232C、USB、IEEE 1394 などのインターフェース (I/F) を介して、上記ネットワーク 3 に接続するようにすると良い。

このような第 1 の実施形態によれば、画像処理システムの撮影装置内に可視光域において各異なる分光分布を有する 6 種類の LED を設けて、外光を遮断しながらこれらを発光させることにより、被写体分光画像を撮像することができる。このとき、光源として LED 等の小型軽量の半導体発光素子を用いているために、撮影装置を小型化することができ、ハンディタイプのものを作成することも可能となる。

また、処理装置によって処理を行うことにより、高度に色再現された画像をディスプレイに表示することが可能となる。

さらに、LEDの発光順序や発光させるLEDを指定することにより、通常のRGB動画像を始めとして、種々の目的に用いる画像を撮像することが可能となる。

加えて、モノクロCCDを用いているために、コストをやや低減することができるとともに、各色の画像データが欠落画素を生じさせることなく1画面ずつ取得されるために、補間処理を省略することが可能となる。

図17から図20は本発明の第2の実施形態を示したものであり、図17は画像処理システムの構成を示すブロック図、図18はフルモードと読み出し2倍速モードとにおける読み出しの様子を示すタイミングチャート、図19は2/4ライン2倍速モードと2/8ライン4倍速モードとにおける読み出されるラインの様子を示す図、図20は撮影モードを設定する際の動作を示すフローチャートである。

この第2の実施形態において、上述の第1の実施形態と同様である部分については同一の符号を付して説明を省略し、主として異なる点についてのみ説明する。

この第2の実施形態は、上述した第1の実施形態を基本構成として、さらに、前面にカラーフィルタアレイ(CFA)19を備えたカラーCCDからの画像読み出し速度を調整することができるように構成したものである。

画像読み出し速度は表示速度に関連しており、表示速度を読み出し速度以上に速くすることはできない。

一般的に、画像をモニタする場合には、30画像/秒程度以上の表示間隔が望ましいが、原色数Nが増加するとそれに伴って比例的に表示間隔が長くなり、ちらつき状態が生じたり、あるいは各原色画像所得時間差による大きな画像位置ずれが生じたりすることがある。

従って、本実施形態は、表示間隔が長くなるのを回避して、読み出し原色数Nによることなく表示間隔を一定にするために、図17に示すように、カメラ制御I/F12AによりCCD8Aからの画像読み出し速度を調整するようにしたも

のである。

図 20 を参照して、撮影モードを設定する際の動作について説明する。

操作スイッチ 14 から撮影モードを選択する操作入力があると（ステップ S 21）、CPU 18 がそれを検出して、メモリ 11 内の記録エリアの一部に、設定する撮影モードやそれに関連する情報等を記録するとともに（ステップ S 22）、カメラ制御 I / F 12 A に撮影モードを変更するように制御を行わせる命令を発行する（ステップ S 23）。

カメラ制御 I / F 12 A は、この指令を受けて、CCD 8 A の駆動を制御し、撮影モードを変更するようになっている。このときには、カメラ制御 I / F 12 は、CCD 8 A の動作に連動させて LED ドライバ 13 を制御することにより、各 LED 6 a ~ 6 f の発光量も合わせて調整するようになっている。

この撮影装置 1 において設定可能な撮影モードは、例えば、次のようになっている。

- (1) フルモード
- (2) 読み出し 2 倍速モード
- (3) 2 / 4 ライン 2 倍速モード
- (4) 2 / 8 ライン 4 倍速モード
- (5) 2 / 16 ライン 8 倍速モード
- (6) 第 1 の中央部走査モード
- (7) 第 2 の中央部走査モード
- (8) 第 3 の中央部走査モード
- (9) 第 4 の中央部走査モード
- (10) 第 1 の中央部高速走査モード
- (11) 第 2 の中央部高速走査モード

「フルモード」は、図 18 (A) に示すように、CCD 8 A の全走査ラインの全画素について通常で速度で順次読み出しを行っていく通常のモードである。なお、ここでは第 1 LED 6 a、第 3 LED 6 c、第 5 LED 6 e を同時に発光させるフレームと、第 2 LED 6 b、第 4 LED 6 d、第 6 LED 6 f を同時に発光させるフレームと、により各フレームが構成されているが、このような発光に

より 6 原色画像を取り込む手段については、後の第 3 の実施形態で説明する。

「読み出し速度 2 倍速モード」は、図 18 (A) に示す通常モードに対して、図 18 (B) に示すように、CCD 8 A の全走査ラインの全画素について通常の 2 倍の速度で順次読み出しを行っていくモードとなっている。なお、ここでは 2 倍速の読み出しを例に挙げたが、これに限らず適宜の倍数でも良いし、さらには可変倍としても構わない。

「2 / 4 ライン 2 倍速モード」は、4 ライン毎に 2 ラインのみを走査することにより、1 フレームを読み出すのに要する時間を半分にするものであり、垂直方向の分解能は半分になるものの、全有効エリアの画像を取得することが可能となっている。

「2 / 8 ライン 4 倍速モード」は、さらに、8 ライン毎に 2 ラインのみを走査することにより、1 フレームを読み出すのに要する時間を通常モードの 1 / 4 にするものである。

「2 / 16 ライン 8 倍速モード」は、同様に、16 ライン毎に 2 ラインのみを走査することにより、1 フレームを読み出すのに要する時間を通常モードの 1 / 8 にするものである。

「第 1 の中央部走査モード」は、図 19 (A) に示すように、全走査ラインのライン数を S としたときに、有効エリアの内の、中央部の S / 2 ラインの部分のみを走査することにより、1 フレームを読み出すのに要する時間を半分にするものである。

「第 2 の中央部走査モード」は、図 19 (B) に示すように、全走査ラインのライン数を S としたときに、有効エリアの内の、中央部の S / 4 ラインの部分のみを走査することにより、1 フレームを読み出すのに要する時間を 1 / 4 にするものである。

「第 3 の中央部走査モード」は、同様に、有効エリアの内の、中央部の S / 8 ラインの部分のみを走査することにより、1 フレームを読み出すのに要する時間を 1 / 8 にするものである。

「第 4 の中央部走査モード」は、同様に、有効エリアの内の、中央部の S / 16 ラインの部分のみを走査することにより、1 フレームを読み出すのに要する時

間を $1/16$ にするものである。

「第1の中央部高速走査モード」は、上記図19(A)に示したような、有効エリアの内の中央部の $S/2$ ラインの部分のみを、通常の2倍の速度で走査することにより、1フレームを読み出すのに要する時間を $1/4$ にするものである。

「第2の中央部高速走査モード」は、上記図19(B)に示したような、有効エリアの内の中央部の $S/4$ ラインの部分のみを、通常の2倍の速度で走査することにより、1フレームを読み出すのに要する時間を $1/8$ にするものである。

これらに限らず、さらに他の手段による高速スキャンを行うことも可能であり、上記を含めて以下のようにまとめることができる。

まず第1は、単純なスキャン速度の高速化である。これは、例えば、読み出し開始を指示するトリガー信号のタイミングを調整することにより行うことができる。例えば、1フレームの表示時間を $1/30$ 秒とする例では、各原色(N原色とする)の読み出し時間が $1/30/N$ となるようにトリガー信号のタイミングを設定することにより達成される。

第2に、間引きスキャンによる高速化である。上記第1の高速化手段では、撮像素子によって高速化に限界が生じる。これに対して、この間引きを行う場合には、画質は低下するものの、安定した走査を行って高速化を図ることができるために、フレームレートが下がることはなく、表示にちらつきを生じさせることがない。この間引きの例としては、上述したような、ライン単位で一定周期、または一定範囲で間引く手段以外に、画素単位で間引くことも可能であり、撮像素子がXYアドレス型のものである場合には、きめ細かく所望の画素のみを読み出すことも可能となる。

第3に、原色に応じてフレームレートを異ならせることによる高速化である。通常のRGBカラーフィルタ等を備えたCCDにおいても、輝度信号に近い緑(G)の画素は、赤(R)や青(B)の画素の2倍の数だけ配設されていることが多い。このような点を考慮して、6原色の内の緑(G)に近いフレームは、それ以外の色のフレームの2倍の数だけ読み出すようにすることが考えられる。もちろん、これに限らず、使用目的に応じて、特定の原色のフレームを多く読み出すようにしたり、必要度に応じて読み出すレートを段階的に異ならせたりすると良

い。

このような第2の実施形態によれば、上述した第1の実施形態とほぼ同様の効果を奏するとともに、読み出し速度を変更することにより、一定の表示速度を確保することが可能となり、高度な色再現時にも動きが自然な動画像を表示することが可能となる。

図21から図36は本発明の第3の実施形態を示したものであり、図21は画像処理システムの構成を示すブロック図、図22は画像処理システムを使用するときの様子の一例を示す図である。この第3の実施形態において、上述の第1、第2の実施形態と同様である部分については同一の符号を付して説明を省略し、主として異なる点についてのみ説明する。

この第3の実施形態は、上述した第1の実施形態を基本構成として、さらに、CCDの撮像面上に3バンドのカラーフィルタアレイを配設した構成としたものである。

すなわち、図21や図22に示すように、撮影装置1は、撮像光学系7により被写体像が結像される光路上のCCD8の近傍に、例えばRGB3バンドのカラーフィルタアレイ（図中、CFAと省略する。）19が配設されていて、撮像素子部としていわゆる単板式のカラー撮像素子が構成されている。

図23は、LED6a～6fの発光スペクトルとカラーフィルタアレイ19を通したCCD8の分光感度特性とを示す線図である。

第1の実施形態においても示したような、曲線fL1～fL6により示される6原色LEDの発光スペクトルに対して、カラーフィルタアレイ19の透過率分布とCCD8の受光感度分布とにより得られるトータルの分光感度特性は、図示の曲線fSB、fSG、fSRとなっている。

これらの内の青色カラーフィルタに該当する分光バンド域を示す曲線fSBは曲線fL1、fL2の2つを包含して第1LED6aと第2LED6bの発光による光を感受することができ、緑色カラーフィルタに該当する分光バンド域を示す曲線fSGは曲線fL3、fL4の2つを包含して第3LED6cと第4LED6dの発光による光を感受することができ、赤色カラーフィルタに該当する分光バンド域を示す曲線fSRは曲線fL5、fL6の2つを包含して第5LED6eと第6LED6

f の発光による光を感受することができるように構成されている。

ただし、トータルの分光感度特性が互いに独立して分離している必要はなく、周辺部分において互いに一部が重なり合うようになっていても構わない。さらに、第 1 の実施形態と同様に、第 1 L E D 6 a ～第 6 L E D 6 f の各発光スペクトルも、一部が重なり合うような発光スペクトルであっても構わない。もちろん、L E D の種類も 6 種類に限るものではなく、適宜の種類数の L E D の組み合わせを採用することができるのも同様である。

次に、画像を取得するときの動作について説明する。

この画像処理システムにおいては、上述した第 1 の実施形態と同様に、画像を取得する際に、モニタ用画像取得モードと分光画像取得モードとを切り替えて行うようになっている。

図 2 4、図 2 6、図 2 7 を参照して、分光画像取得モードの動作について説明する。図 2 4 は 6 バンドの分光画像を生成するときのフレーム毎の分光画像の分光特性を示す線図、図 2 6 は 6 バンド分光画像取得における各 L E D の発光と撮像素子の画像取得との動作を示すフローチャート、図 2 7 は 6 バンド分光画像取得における各 L E D の発光と撮像素子の画像取得との動作の様子を示すタイミングチャートである。

第 1 の実施形態において説明したように、撮影ボタン 1 4 a が押下されて分光画像取得モードに切り替わると、分光画像の撮像を開始する判断を行う（ステップ S 3 1）。

ここで分光画像の撮像が開始されると、フレーム N の画像の取り込みを行って、その後にフレーム N + 1 の画像の取り込みを行う。

まず、フレーム N の画像の取り込みが開始されると、第 1 L E D 6 a、第 3 L E D 6 c、第 5 L E D 6 e を同時に点灯させ（図 2 4（A）参照）（ステップ S 3 2）、点灯が開始された後に C C D 8 による撮像を開始する（図 2 7 参照）（ステップ S 3 3）。

C C D 8 による撮像が終了したら、C C D 8 から画像データを読み出して、上記 A / D 変換器 9 によりデジタルデータに変換させ、バス 1 0 を介してメモリ 1 1 内の所定の記憶領域（フレームメモリ）に記憶させる（ステップ S 3 4）。

そして、該フレームメモリに記憶された各画像データを、原色毎に分類して、該メモリ 11 内の所定の記憶領域（第 1，第 3，第 5 メモリ）に記憶させる（ステップ S 35）。

その後に各 LED 6a，6c，6e を消灯することで（ステップ S 36）、フレーム N の画像取り込みが終了する。

次のフレーム N+1 の画像の取り込みは、点灯させる LED や撮像した画像データを転送するメモリ領域が異なるだけで、基本的にはフレーム N の画像の取り込みと同様である。

すなわち、第 2 LED 6b，第 4 LED 6d，第 6 LED 6f を同時に点灯させ（図 24（B）参照）（ステップ S 37）、点灯が開始された後に、CCD 8 による撮像を開始する（図 27 参照）（ステップ S 38）。

CCD 8 による撮像が終了したら、CCD 8 から画像データを読み出して、上記 A/D 変換器 9 によりデジタルデータに変換させ、バス 10 を介してメモリ 11 内の所定の記憶領域（フレームメモリ）に記憶させる（ステップ S 39）。

そして、該フレームメモリに記憶された各画像データを、原色毎に分類して、該メモリ 11 内の所定の記憶領域（第 2，第 4，第 6 メモリ）に記憶させる（ステップ S 40）。

その後に各 LED 6b，6d，6f を消灯することで（ステップ S 41）、フレーム N+1 の画像取り込みが終了する。

なお、図示しないが、発光素子（LED）と撮像素子（CCD）による画像取得タイミングは、前述に限らず、撮像素子の画像取得開始後に発光素子を点灯し、発光素子の消灯後に撮像素子による画像取得を終了する、などでも同等である。

また、上記ステップ S 35 やステップ S 40 において第 1～第 6 メモリに記憶された各原色の画像は、カラーフィルタアレイ 19 の原色配列に応じた画素の欠落が生じているために、必要に応じて、撮影装置 1 または処理装置 2 において補間処理が行われることになる。

こうしてメモリ 11 に記憶された 6 バンドの被写体分光画像は、処理装置 2 に送られて、処理プログラムにより色再現や画像処理が行われる。この処理結果は

、他の処理プログラムによってディスプレイ 22 に表示されるか、または撮影装置 1 に転送されて LCD モニタ 16 に表示される。

次に、図 25、図 28、図 29 を参照して、モニタ用画像取得モードの動作について説明する。図 25 はモニタ用画像を生成するときのフレーム毎の分光画像の分光特性を示す線図、図 28 はモニタ用画像取得における各 LED の発光と撮像素子の画像取得との動作を示すフローチャート、図 29 はモニタ用画像取得における各 LED の発光と撮像素子の画像取得との動作の様子を示すタイミングチャートである。

なお、本実施形態においても上述した各実施形態と同様に、一般の RGB 画像用を想定して、第 1 LED 6 a および第 2 LED 6 b が青 (B) の範疇に相当し、第 3 LED 6 c および第 4 LED 6 d が緑 (G) の範疇に相当し、第 5 LED 6 e および第 6 LED 6 f が赤 (R) の範疇に相当するように、各発光原色の選定を行っている。

電源スイッチがオンされることによりモニタ用画像取得モードが設定されるか、あるいは分光画像取得モードが終了することによりモニタ用画像取得モードに復帰すると、モニタ用画像の撮像を開始するのを待機する (ステップ S 5 1)。

ここでは直ちに撮像が開始され、全ての LED 6 a ~ 6 f を点灯させる (図 25 参照) (ステップ S 5 2)。全 LED 6 a ~ 6 f の点灯が開始された後に、CCD 8 による撮像を開始する (図 29 参照) (ステップ S 5 3)。

CCD 8 による撮像が終了したら、その後に全 LED 6 a ~ 6 f を消灯し (ステップ S 5 4)、CCD 8 から画像データを読み出して、上記 A/D 変換器 9 によりデジタルデータに変換させ、バス 10 を介してメモリ 11 内の所定の記憶領域 (第 1、第 3、第 5 メモリ) に記憶させる (ステップ S 5 5)。

モニタ用画像取得モードが設定されている間は、上記ステップ S 5 1 に戻ってこのような動作を繰り返すことにより、動画像を取得するようになっている。

このようにして得られた画像は、モニタ用の画像データに変換されて、モニタ I/F 15 を介して LCD モニタ 16 に表示される。このときには、設定によって、処理装置 2 のディスプレイ 22 にモニタ用画像を表示することもできるようになっている。

なお、図 29 に示したタイミングチャートでは、CCD 8 による撮像毎に LED 6a～6f の全点灯と全消灯とを行って消費電力の低減を図っているが、モニタ用画像取得モードが設定されている間は、LED 6a～6f を連続的に点灯させるようにしても構わない。

また、図示しないが、発光素子 (LED) と撮像素子 (CCD) による画像取得タイミングは、前述に限らず、撮像素子の画像取得開始後に発光素子を点灯し、発光素子の消灯後に撮像素子による画像取得を終了する、などでも同等である。

なお、モニタ画像取得方法として、本実施形態における 6 バンドの分光画像取得モードを連続させることにより、6 バンドの分光画像の第 1 と第 2 バンドのメモリ加算、第 3 と第 4 バンドのメモリ加算、第 5 と第 6 バンドのメモリ加算を同時に行うことによってモニタ画像を生成することも可能である。この場合は、撮影部アルゴリズムを変えることなくメモリ加算を行うだけでモニタ画像を生成することができる。これは、連続した分光画像測定時のモニタ方法として有効である。

次に、図 30 から図 36 は、この第 3 の実施形態の変形例を示しており、図 30 は 8 バンドの分光画像を生成するときの LED の発光スペクトルとカラーフィルタアレイを通した CCD の分光感度特性とを示す線図である。

この変形例は、カラーフィルタアレイ 19 を介した CCD 8 による RGB の検出バンド同士の間にもたがるような発光分光特性の LED を設けることにより、LED は 6 原色 (6 バンド) の発光を行うだけであるのに、検出としては 8 バンドの出力を得られるようにしたものである。

すなわち、図 30 (A) に示すように、カラーフィルタアレイ 19 の透過率分布と CCD 8 の受光感度分布とにより得られるトータルの分光感度特性を示す曲線 fSB, fSG, fSR に対して、各 LED 6a～6f による発光の分光特性 (各々曲線 fL1'～fL6' で示す) は、次のようになっている。

まず、青色カラーフィルタに該当する分光バンド域を示す曲線 fSB 内には、曲線 fL1', fL2' の 2 つが包含されていて、曲線 fL3' も一部が包含されている。

緑色カラーフィルタに該当する分光バンド域を示す曲線 f SG 内には、曲線 f L4' が包含されていて、さらに、上記曲線 f L3' の一部と、曲線 f L5' の一部と、が包含されている。

赤色カラーフィルタに該当する分光バンド域を示す曲線 f SR 内には、曲線 f L6' が包含されていて、さらに、上記曲線 f L5' の一部が包含されている。

こうして、第 3 LED 6 c による発光の分光特性（曲線 f L3'）は青色カラーフィルタのバンドと緑色カラーフィルタのバンドとにまたがり、第 5 LED 6 e による発光の分光特性（曲線 f L5'）は緑色カラーフィルタのバンドと赤色カラーフィルタのバンドとにまたがるように構成されている。

このような構成により、各 LED 6 a ~ 6 f により発光された光をカラーフィルタアレイ 19 を介して CCD 8 により受光したときのトータルの分光感度特性は、図 30 (B) に示すように、曲線 f SL1'（曲線 f L1' および曲線 f SB による）、曲線 f SL2'（曲線 f L2' および曲線 f SB による）、曲線 f SL3'（曲線 f L3' および曲線 f SB による）、曲線 f SL4'（曲線 f L3' および曲線 f SG による）、曲線 f SL5'（曲線 f L4' および曲線 f SG による）、曲線 f SL6'（曲線 f L5' および曲線 f SG による）、曲線 f SL7'（曲線 f L5' および曲線 f SR による）、曲線 f SL8'（曲線 f L6' および曲線 f SR による）の合計 8 バンドとなる。

次に、図 31 から図 33 を参照して、8 バンドの分光画像を取得する動作について説明する。図 31 は 8 バンドの分光画像を生成するときのフレーム毎の分光画像の分光特性を示す線図、図 32 は 8 バンド分光画像取得における各 LED の発光と撮像素子の画像取得との動作を示すフローチャート、図 33 は 8 バンド分光画像取得における各 LED の発光と撮像素子の画像取得との動作の様子を示すタイミングチャートである。

なお、この変形例においては、8 バンドの分光画像を撮像するために、メモリ 11 にはこれらに各対応して第 1 ~ 第 8 メモリの記憶領域が設けられている。

撮影ボタン 14 a が押下されて分光画像取得モードに切り替わると、分光画像の撮像を開始する判断を行う（ステップ S 61）。

分光画像の撮像が開始されると、まず、図 31 (A) に示すようなフレーム N の画像の取り込み動作が開始され、第 1 LED 6 a と第 4 LED 6 d とを同時に

点灯させ（ステップS 6 2）、点灯が開始された後に、CCD 8による撮像を開始する（図3 3参照）（ステップS 6 3）。

CCD 8による撮像が終了したら、その後にLED 6 a, 6 dを消灯し（ステップS 6 4）、CCD 8から画像データを読み出して、上記A/D変換器9によりデジタルデータに変換させ、バス10を介してメモリ11内の所定の記憶領域（第1, 第2メモリ）に記憶させる（ステップS 6 5）。これにより、フレームNの画像取り込み動作（2バンドの被写体分光画像の取得）が終了する。

次に、図3 1（B）に示すようなフレームN+1の画像の取り込み動作が開始され、第2LED 6 bと第5LED 6 eとを同時に点灯させ（ステップS 6 6）、点灯が開始された後に、CCD 8による撮像を開始する（図3 3参照）（ステップS 6 7）。

CCD 8による撮像が終了したら、その後にLED 6 b, 6 eを消灯し（ステップS 6 8）、CCD 8から画像データを読み出して、上記メモリ11内の所定の記憶領域（第3, 第4, 第5メモリ）に記憶させる（ステップS 6 9）。これにより、フレームN+1の画像取り込み動作（3バンドの被写体分光画像の取得）が終了する。

さらに、図3 1（C）に示すようなフレームN+2の画像の取り込み動作が開始され、第3LED 6 cと第6LED 6 fとを同時に点灯させ（ステップS 7 0）、点灯が開始された後に、CCD 8による撮像を開始する（図3 3参照）（ステップS 7 1）。

CCD 8による撮像が終了したら、その後にLED 6 c, 6 fを消灯し（ステップS 7 2）、CCD 8から画像データを読み出して、上記メモリ11内の所定の記憶領域（第6, 第7, 第8メモリ）に記憶させる（ステップS 7 3）。これにより、フレームN+2の画像取り込み動作（3バンドの被写体分光画像の取得）が終了する。

分光画像を動的に連続して取り込む場合には、このようなフレームNからフレームN+2までの動作を繰り返して行うことになる。

なお、図示しないが、発光素子（LED）と撮像素子（CCD）による画像取得タイミングは、前述に限らず、撮像素子の画像取得開始後に発光素子を点灯し

、発光素子の消灯後に撮像素子による画像取得を終了する、などでも同等である。

こうしてメモリ 11 に記憶された 6 バンドの被写体分光画像は、処理装置 2 に送られて、処理プログラムにより色再現や画像処理が行われる。この処理結果は、他の処理プログラムによってディスプレイ 22 に表示されるか、または撮影装置 1 に転送されて LCD モニタ 16 に表示される。

続いて、図 34 から図 36 を参照して、モニタ用画像を取得する動作について説明する。図 34 はモニタ用画像を生成するときのフレーム毎の分光画像の分光特性を示す線図、図 35 はモニタ用画像取得における各 LED の発光と撮像素子の画像取得との動作を示すフローチャート、図 36 はモニタ用画像取得における各 LED の発光と撮像素子の画像取得との動作の様子を示すタイミングチャートである。

電源スイッチがオンされることによりモニタ用画像取得モードが設定されるか、あるいは分光画像取得モードが終了することによりモニタ用画像取得モードに復帰すると、モニタ用画像の撮像を開始するのを待機する（ステップ S81）。

ここでは直ちに撮像が開始され、全ての LED 6a～6f を点灯させる（図 34 参照）（ステップ S82）。全 LED 6a～6f の点灯が開始された後に、CCD 8 による撮像を開始する（図 36 参照）（ステップ S83）。

CCD 8 による撮像が終了したら、その後に全 LED 6a～6f を消灯し（ステップ S84）、CCD 8 から画像データを読み出して、上記 A/D 変換器 9 によりデジタルデータに変換させ、バス 10 を介してメモリ 11 内の所定の記憶領域に記憶させる（ステップ S85）。

ここでは、CCD 8 による撮像毎に LED 6a～6f の全点灯と全消灯とを行って消費電力の低減を図っているが、上記図 29 において説明したのと同様に、モニタ用画像取得モードが設定されている間は、LED 6a～6f を連続的に点灯させるようにしても構わない。

なお、図示しないが、発光素子（LED）と撮像素子（CCD）による画像取得タイミングは、前述に限らず、撮像素子の画像取得開始後に発光素子を点灯し、発光素子の消灯後に撮像素子による画像取得を終了する、などでも同等である。

。

その後、モニタ用画像取得モードが解除されるまで、上記ステップS 8 1に戻って、上述したような動作を繰り返して行うことにより、動画像用の画像データを連続的に取得するようになっている。

このようにして得られた画像は、モニタ用の画像データに変換されて、モニタ I / F 1 5 を介して L C D モニタ 1 6 に表示される。このときには、設定によって、処理装置 2 のディスプレイ 2 2 にモニタ用画像を表示することもできるようになっている。

なお、上述では、撮像素子として、3 バンドのカラーフィルタアレイとの組み合わせによる単板撮像素子を例に挙げたが、これに限らず、入射光を複数の波長帯域の光に分離する分光ミラーや分光プリズム等の分光部と、この分光部により分光された複数の波長帯域の光を撮像する複数の撮像素子と、を有して構成される 3 板式の 3 バンド撮像素子であっても良いし、あるいは 2 板式の撮像素子であっても構わない。さらに、カラーフィルタとしては、R G B 3 バンドによる原色系フィルタに限るものではなく、補色系フィルタのものであってももちろん構わない。

また、上述では 6 バンドの発光スペクトルの L E D から 8 バンドの被写体分光画像データを取得しているが、これに限らず、組み合わせにより任意の被写体分光画像データを取得するようにしても良い。例えば、光源として第 3 L E D と第 5 L E D のみ、すなわち 2 バンドの光源のみであっても、図 3 1 に f S L 3' , f S L 4' , f S L 6' , f S L 7' で示すように、4 バンドの被写体分光画像を得ることができる。この他、様々な組み合わせが可能である。

このような第 3 の実施形態によれば、上述した第 1 , 第 2 の実施形態とほぼ同様の効果を奏するとともに、カラー撮像素子を用いることにより、被写体分光画像を取得するのに必要な撮像回数を減少させることができ、高度な色再現の動画像などもより容易に実現可能となる。

さらに、L E D の発光スペクトルが、カラー撮像素子による受光の分光感度分布にまたがるように構成することにより、6 バンドの発光スペクトルの L E D を用いながら、8 バンドの被写体分光画像データを取得することが可能となる。

図 3 7 から図 4 2 は本発明の第 4 の実施形態を示したものであり、図 3 7 は画像処理システムの構成を示すブロック図である。この第 4 の実施形態において、上述の第 1 から第 3 の実施形態と同様である部分については同一の符号を付して説明を省略し、主として異なる点についてのみ説明する。

この第 4 の実施形態は、上述した第 3 の実施形態を基本構成として、さらに、スペクトル検出センサを付加した構成としたものである。

すなわち、図 3 7 に示すように、画像処理システムの撮影装置 1 は、光のスペクトル分布を検出するスペクトル検出センサ 4 1 と、このスペクトル検出センサ 4 1 へ検出光を導入するプローブ 4 2 と、上記スペクトル検出センサ 4 1 からの出力をデジタル信号に変換するとともに処理して出力するセンサ I/F 4 3 と、被写体特性を記憶する被写体特性メモリ 4 4 と、カメラ特性を記憶するカメラ特性メモリ 4 5 と、を図 2 1 に示した第 3 の実施形態の構成に加えてさらに有して構成されている。

上記スペクトル検出センサ 4 1 は、第 1 LED 6 a ～第 6 LED 6 f を用いて CCD 8 により 6 バンド分光画像を取得する構成とは異なり、光を画像として取り込むのではなくスペクトルのみを検出するものである。

このスペクトル検出センサ 4 1 は、光検出範囲が可視光域全域（380 nm ～ 800 nm）をカバーするものとなっていて、グレーティング方式により検出を行い、分解能は 5 nm である。従って、詳細なスペクトルデータを取得することが可能となっている。なお、ここではグレーティング方式のスペクトル検出センサを例に挙げているが、それ以外の方式のものであっても構わない。

上記プローブ 4 2 は、例えばフレキシブルな光ファイバ（または光ファイババンドル）を使用しているが、これに限らず、検出光を導光することができるようなものであれば、広く使用することが可能である。

このような構成を用いて、被写体からの光を検出すると該被写体の光スペクトルを検出することができる一方で、被写体の代わりに標準白色板を置くことにより、照明光のスペクトル特性を測定することも可能となる。

より詳しくは、上記当て付け部 4 等を用いて外部の照明光を遮断し、第 1 LED 6 a ～第 6 LED 6 f を順次発光させて検出することにより、各 LED 6 a ～

6 f のスペクトル特性を測定することができる。これにより、これらの発光素子自体の劣化や、温度等の環境変化によるスペクトル特性の変化を検出することができる。ひいては、特性の変化を反映した照明スペクトルのプロファイルを得ることができるために、より正確な高色再現を実現することが可能となる。

さらに、外部の照明光を検出して、環境照明光のスペクトル特性を測定することも可能である。

次に、図 38 は、スペクトル検出センサを複数配設した画像処理システムを使用するときの様子の一例を示す図である。

この図 38 には、スペクトル検出センサのより具体的な配設例を示していて、ここでは 2 つのスペクトル検出センサ、すなわち、第 1 のスペクトル検出センサ 47 と第 2 のスペクトル検出センサ 46 とが用いられている。

第 1 のスペクトル検出センサ 47 は、被写体部分の分光スペクトルを検出するために配設されたものであり、プローブとなる光ファイバ 49 の先端が、第 1 LED 6 a ～第 6 LED 6 f の近傍の、筐体 5 の投射口 5 a を介して被写体光を入射することができる位置に配設されている。

この第 1 のスペクトル検出センサ 47 は、上述したように、被写体の代わりに標準白色板を配することにより、第 1 LED 6 a ～第 6 LED 6 f の照明スペクトルを検出するのに用いることができるとともに、後述するように先端にレンズ等を配設することにより、被写体のスポット（特定部分）の分光反射スペクトルを直接的に取得することも可能となっている。

これにより、第 1 のスペクトル検出センサ 47 を用いて、自動車の塗装色、建物の塗装色、食料品の分光特性、衣料品の染色などのスペクトルデータを直接取得すれば、それぞれの検査や確認のためのデータとして利用することが可能となる。

また、第 2 のスペクトル検出センサ 46 は、被写体がおかれた環境の照明光スペクトルを検出できるように設けられたものであり、プローブとなる光ファイバ 48 の先端が、筐体 5 の外面に露呈するとともに、その先端を覆うように白色で半透過性を有する積分球 48 c が取り付けられている。この第 2 のスペクトル検出センサ 46 を用いることにより、撮影装置 1 から離間した位置にあ

る被写体を、太陽光や室内光のみで撮影するときの照明スペクトルを取得することが可能となる。これにより、被写体像の撮影と同時に、そのときの環境照明光に係る照明スペクトルのプロファイルを作成することが可能であるために、環境照明光が変化したとしてもそれに対応して、リアルタイムな高色再現を自動的に行うことができる。

さらに、撮影装置 1 の周辺環境光のスペクトルを検出して、撮影装置 1 自体に内蔵する LED のスペクトルと比較することにより、周辺環境光と LED 光との何れを用いて撮像を行うかを適応的に切り替えることも可能となる。例えば、RGB の動画像を撮像するときには周辺環境光を用いることが可能であるために、この場合には内蔵する LED を発光させないことにより、消費電力の低減を図ることなども可能となる。

図 39 は、スペクトル検出センサ 41 の構成例を示す断面図である。

上記プローブ 42 は、入射端 42a から光を入射して、出射端 42b から出射するものである。

スペクトル検出センサ 41 は、箱体 41a と、この箱体 41a の一端部に開口して設けられていて上記プローブ 42 の出射端 42b から出射される光をスリット光として入射するための入射光スリット 41b と、上記箱体 41a の内部に配設されていて上記入射光スリット 41b から入射したスリット光を波長に応じて分光し異なる方向に反射して集光させるグレーティング 41c と、上記箱体 41a に取り付けられていて上記グレーティング 41c により波長に応じて異なる位置に集光される光を受光してその強度に応じた信号を出力するフォトダイオードアレイ 41d と、を有して構成されている。

これにより、フォトダイオードアレイ 41d は、受光位置に応じて異なる波長の光を光電変換し、強度に応じた信号を出力することになる。

上記センサ I/F 43 は、このフォトダイオードアレイ 41d から出力されるアナログ信号をデジタル信号に変換するための A/D 変換器 43a を有して構成されていて、変換後のデジタル信号を上記バス 10 を介して CPU 18 等へ出力するようになっている。CPU 18 は、このデジタル信号を各波長の強度を示すスペクトル情報として受けて、解析等を行うようになっている。

図４０は、スペクトル検出センサ４７に接続される光ファイバ４９の入射端４９ａの様子を示す断面図である。なお、この図４０においては、撮像光学系７等の図示を省略している。

光ファイバ４９の入射端４９ａには、ある角度範囲からの光が入射するようになっている。図示の例では、筐体５の投射口５ａを介して入射する、撮影対象である被写体表面からの反射光が、上記入射端４９ａに到達するように設置されている。

この図４０に示す構成は、上述したような、被写体として標準白色板を用い、ＬＥＤ照明のスペクトルを検出して経年変化による色の変化情報を取得するなどに用いることができるものである。

また、図４１は、スペクトル検出センサ４７に接続される光ファイバ４９の入射端４９ａの近傍にセンサ用光学系４９ｃを配設した構成例を示す断面図である。なお、この図４１においても、撮像光学系７等の図示を省略している。

この図４１に示すように、スペクトル検出センサ４７に接続される光ファイバ４９の入射端４９ａにレンズ等であるセンサ用光学系４９ｃを設けることにより、入射端４９ａへ入射する光束を被写体のある範囲からの光に制限することができる。これにより、上述したように、被写体の特定位置のスペクトルを高い波長分解能で測定することが可能となる。

図４２は、環境光取得用に設けられたスペクトル検出センサ４６に接続される光ファイバ４８の入射端４８ａの様子を示す断面図である。なお、この図４２においても、撮像光学系７等の図示を省略している。

上述したように、入力用の光ファイバ４８の入射端４８ａは、筐体５の外面に露呈しており、この入射端４８ａを取り囲むように、白色で半透過性を有する積分球４８ｃが取り付けられている。

このような構成において、環境照明光がこの積分球４８ｃに照射されると、拡散して透過され、光ファイバ４８の入射端４８ａから入射する。この入射光は、該光ファイバ４８により伝達されて、スペクトル検出センサ４６によりスペクトルの測定が行われる。

このような第４の実施形態によれば、上述した第１から第３の実施形態とほぼ

同様の効果を奏するとともに、スペクトル検出センサを設けることにより、被写体光のスペクトル分布を得ることができるとともに、LEDのスペクトル分布を取得して、よりリアルタイムで正確な色再現を行うことも可能となる。

また、センサ用光学系を用いることにより、被写体の特定部分のスペクトル分布を取得することも可能となる。このセンサ用光学系は、上述したように、例えば5 nmの分解能をもつものとなっているために、被写体の特定部位について、より詳細なスペクトルデータを取得することが可能となり、より精密な診断や判定を行うことができる。

さらに、環境照明光のスペクトルを検出することもできるために、環境照明光に係る照明スペクトルのプロファイルをリアルタイムに取得することも可能となる。

なお、本発明は上述した実施形態に限定されるものではなく、発明の主旨を逸脱しない範囲内において種々の変形や応用が可能であることは勿論である。

産業上の利用可能性

以上説明したように本発明の画像処理システムによれば、小型軽量で携帯可能な高色再現の画像処理システムとなる。

請 求 の 範 囲

1. 被写体を照明するためのものであつて少なくとも可視光域において複数のそれぞれ互いに独立して異なる分光分布特性の発光を行う複数の発光素子と、上記発光素子により照明された被写体像を結像する撮像光学系と、上記撮像光学系により結像された被写体像を撮像して画像信号を出力する撮像素子部と、上記複数の発光素子を分光分布特性に応じて選択的に点灯させて該点灯と上記撮像素子部による撮像を行わせる動作とを同期させて該複数の発光素子の選択を異ならせて複数回行わせることにより複数の被写体分光画像を取得するように制御する制御部と、を含む撮影装置と、

上記画像信号から所望の画像演算を行う演算部を含む処理装置と、
を具備したことを特徴とする画像処理システム。

2. 上記制御部は、分光分布特性に従つて、上記複数の発光素子から、1つ以上の発光素子を含む素子群を複数有してなるグループを設定し、設定したグループ内における複数の素子群の点灯順序を定めて、この点灯順序に従つて各素子群の発光素子を点灯させることにより、上記選択的な点灯を行わせて、複数の被写体分光画像を取得するように制御するものであることを特徴とする請求の範囲第1項に記載の画像処理システム。

3. 上記制御部は、上記グループを複数種類設定して、用途に応じて必要なグループを用いるように制御するものであることを特徴とする請求の範囲第2項に記載の画像処理システム。

4. 上記制御部は、上記複数の発光素子から、可視光域内の青に属する発光素子の素子群と、可視光域内の緑に属する発光素子の素子群と、可視光域内の赤に属する発光素子の素子群と、で構成されるグループを設定し、撮像フレーム毎に各素子群の発光素子を順次点灯させて、上記撮像素子部により3原色カラー動画を撮像させる制御をさらに行うものであることを特徴とする請求の範囲第3項に記載の画像処理システム。

5. 上記撮影装置は、少なくとも分光画像撮影動作の開始を指示入力するための撮影操作部をさらに含み、

上記制御部は、上記撮影操作部から分光画像撮影動作の開始が指示入力されるのに応じて、上記複数の被写体分光画像を取得するための制御を行うものであることを特徴とする請求の範囲第3項に記載の画像処理システム。

6. 上記撮影操作部は、押下式のボタンスイッチを有して構成され、

上記制御部は、このボタンスイッチが押下された時に、上記グループを変更させるように制御するものであることを特徴とする請求の範囲第5項に記載の画像処理システム。

7. 上記制御部は、上記ボタンスイッチが押下された時に、さらに、変更したグループの素子群の点灯タイミングを制御するものであることを特徴とする請求の範囲第6項に記載の画像処理システム。

8. 上記制御部は、上記撮像素子部による撮像を、発光素子の点灯開始後に開始させるとともに、該発光素子が消灯される前に終了させるように制御するものであることを特徴とする請求の範囲第1項に記載の画像処理システム。

9. 上記撮像素子部は、入射光を複数の波長帯域の光に分離する分光部と、この分光部により分光された複数の波長帯域の光を撮像する複数の撮像素子と、を有して構成されたものであることを特徴とする請求の範囲第1項に記載の画像処理システム。

10. 上記撮像素子部は、カラーフィルタアレイを備えたカラー撮像素子を有して構成されたものであることを特徴とする請求の範囲第1項に記載の画像処理システム。

11. 上記撮影装置は、上記発光素子の分光分布特性を検出するためのスペクトル検出センサをさらに有して構成されたものであることを特徴とする請求の範囲第1項に記載の画像処理システム。

12. 上記撮影装置は、環境光の分光分布特性を検出するためのスペクトル検出センサをさらに有して構成されたものであることを特徴とする請求の範囲第1項に記載の画像処理システム。

13. 上記撮影装置は、該被写体に一端部側が接するようになされた当て付け部をさらに有して構成されたものであることを特徴とする請求の範囲第1項に記載の画像処理システム。

14. 上記当て付け部は、柔軟性を有する素材により略筒状に形成されたものであることを特徴とする請求の範囲第13項に記載の画像処理システム。

15. 上記当て付け部は、外光の影響を排除または軽減する素材により構成されたものであることを特徴とする請求の範囲第13項に記載の画像処理システム。

16. 上記当て付け部は、撮影装置の筐体に対して着脱可能となるように構成されたものであることを特徴とする請求の範囲第13項に記載の画像処理システム。

17. 上記処理装置は、上記撮影装置により撮影された被写体分光画像を記憶するための画像メモリ部をさらに含み、

上記演算部は、上記画像メモリ部に記憶された画像信号から所望の画像演算を行うものであることを特徴とする請求の範囲第1項に記載の画像処理システム。

18. 上記演算部は、上記画像メモリ部に記憶された被写体分光画像に基づき、高度に色再現された被写体の画像を表示するための信号を演算するものであることを特徴とする請求の範囲第17項に記載の画像処理システム。

19. 上記処理装置は、上記撮影装置により取得されるデータに基づき、高度に色再現された被写体の画像を表示するための信号を演算するのに必要なプロファイル情報を算出するものであることを特徴とする請求の範囲第18項に記載の画像処理システム。

20. 上記演算部は、上記画像メモリ部に記憶された被写体分光画像に基づき、被写体に係る判別または解析を行いその結果を出力するものであることを特徴とする請求の範囲第17項に記載の画像処理システム。

21. 上記撮像素子部は、撮像時のフレームレートを変更することができるように構成されたものであることを特徴とする請求の範囲第1項に記載の画像処理システム。

22. 上記撮影装置は、少なくとも分光画像撮影動作の開始を指示入力するための撮影操作部をさらに含み、

上記制御部は、上記撮影操作部から分光画像撮影動作の開始が指示入力されるのに応じて、上記複数の被写体分光画像を取得するための制御を行うものである

ことを特徴とする請求の範囲第 1 項に記載の画像処理システム。

図 1

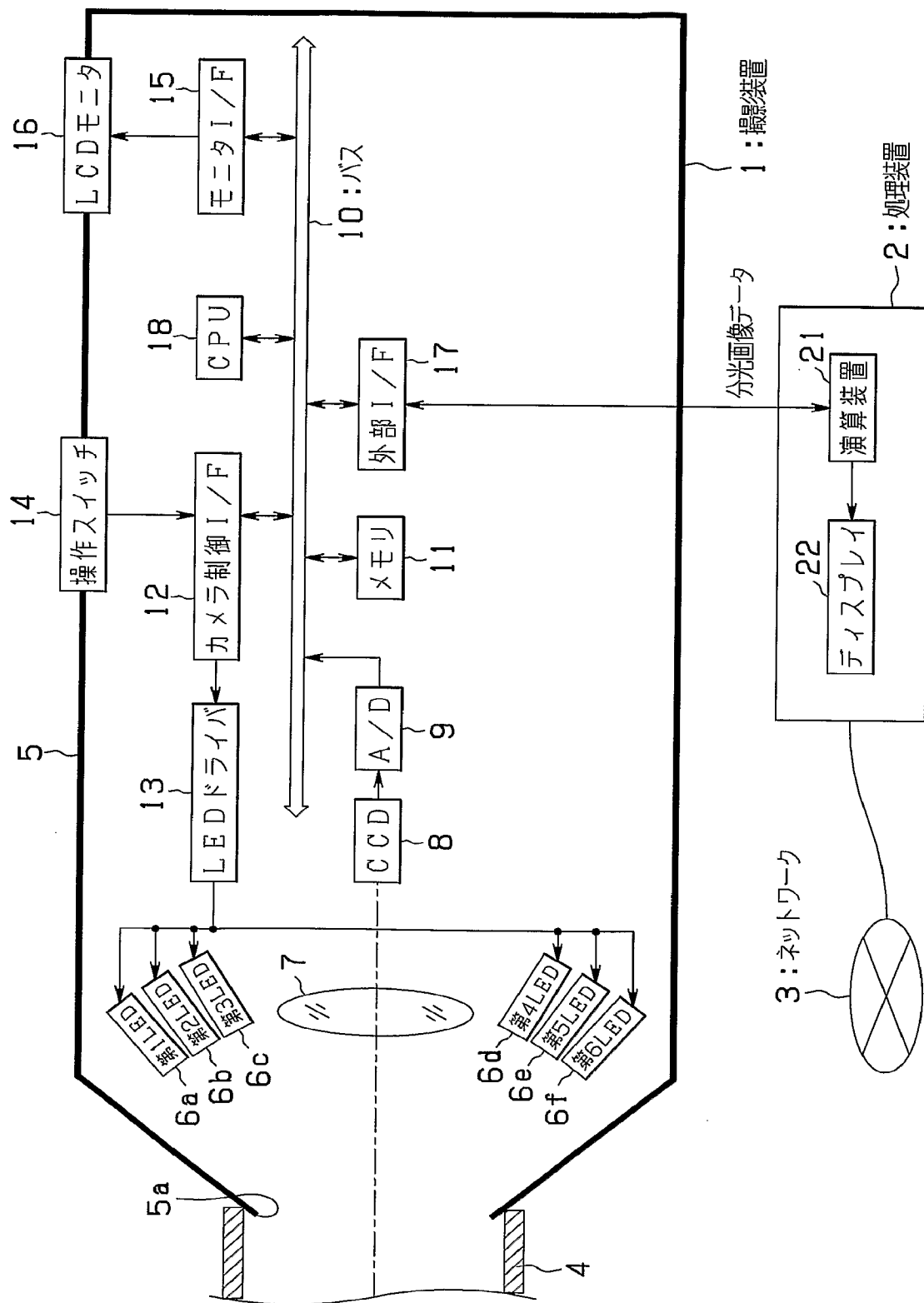


図 2

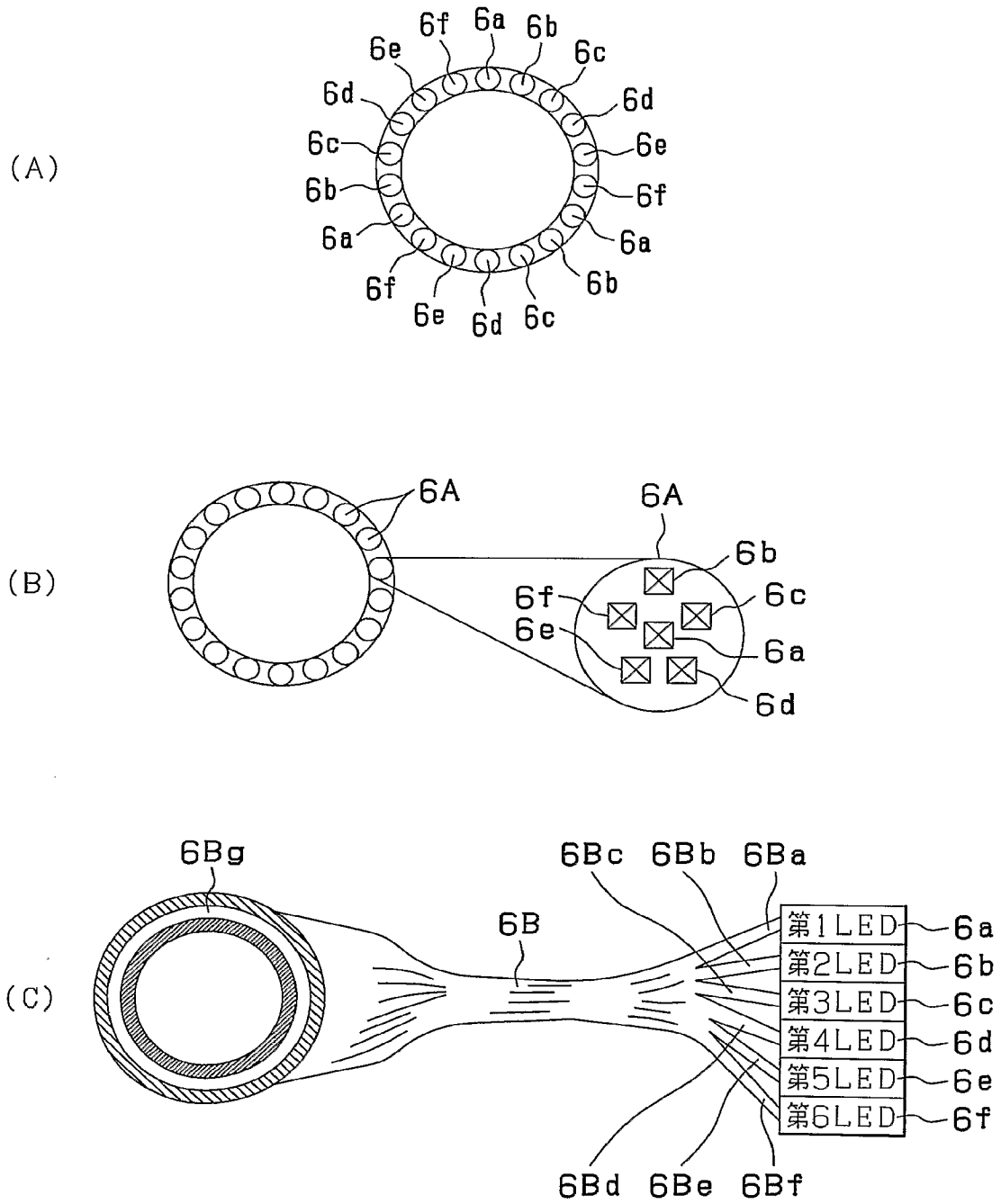


図 3

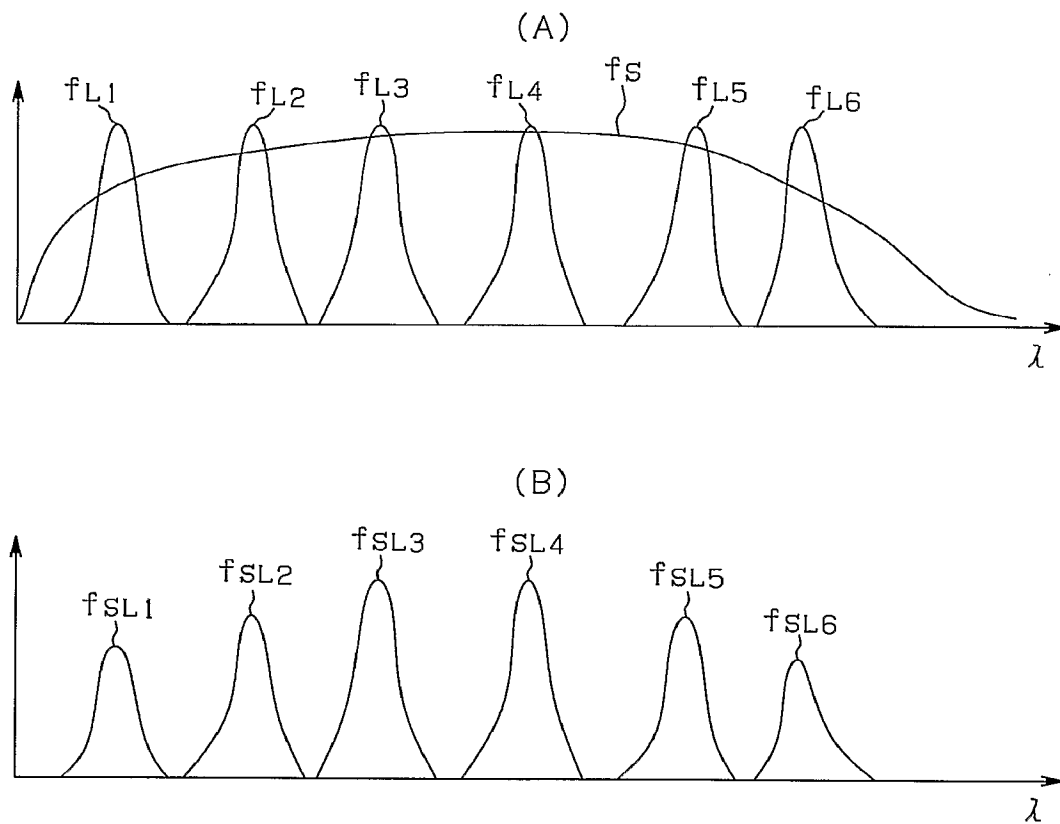


図 4

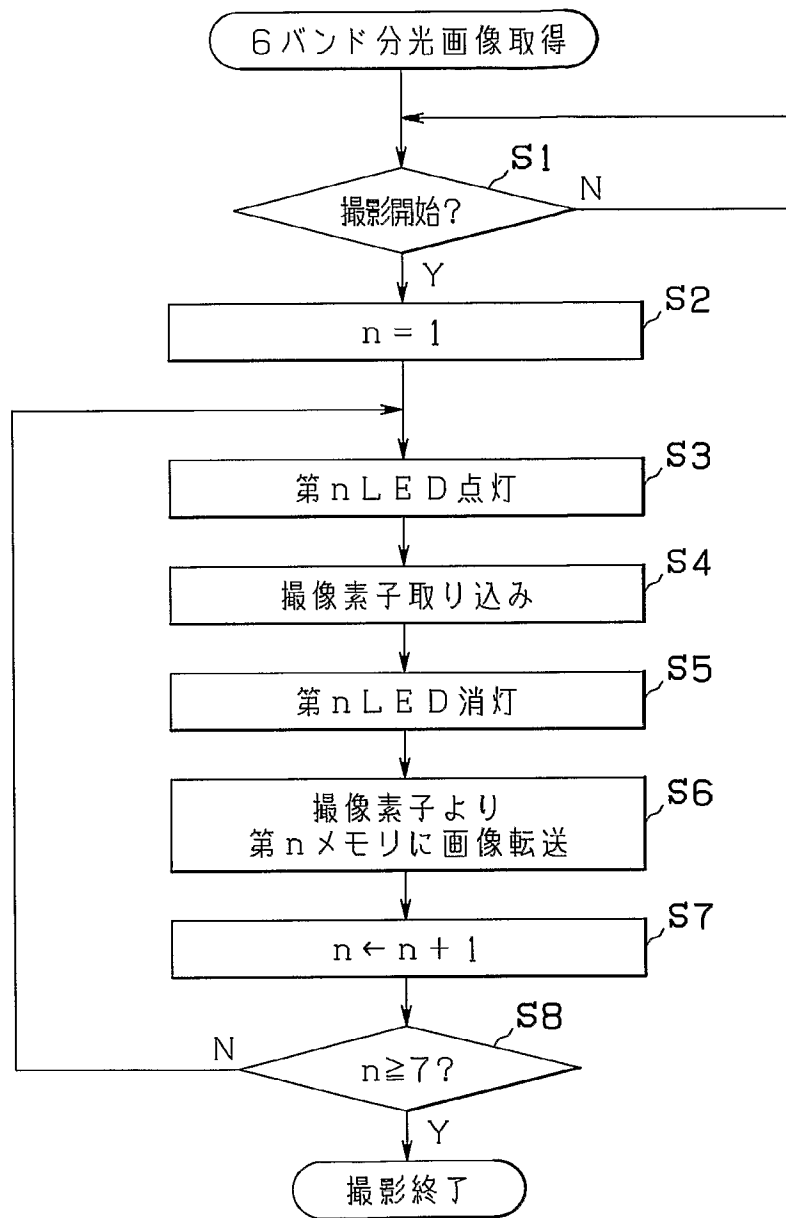


図 5

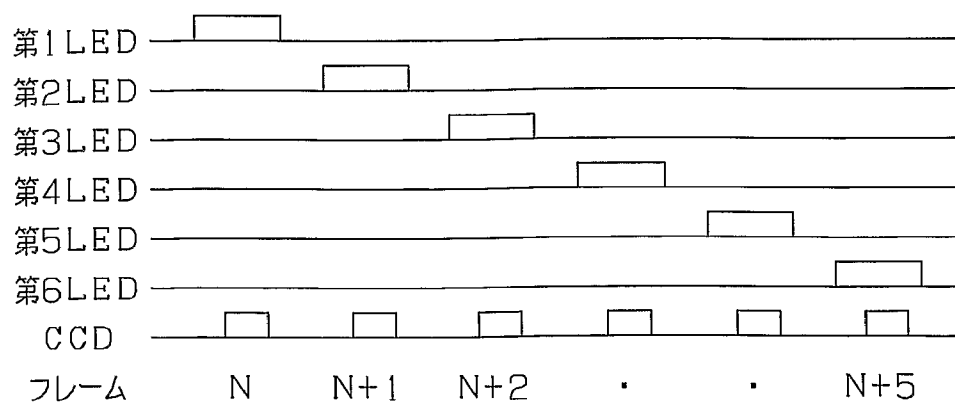


図 6

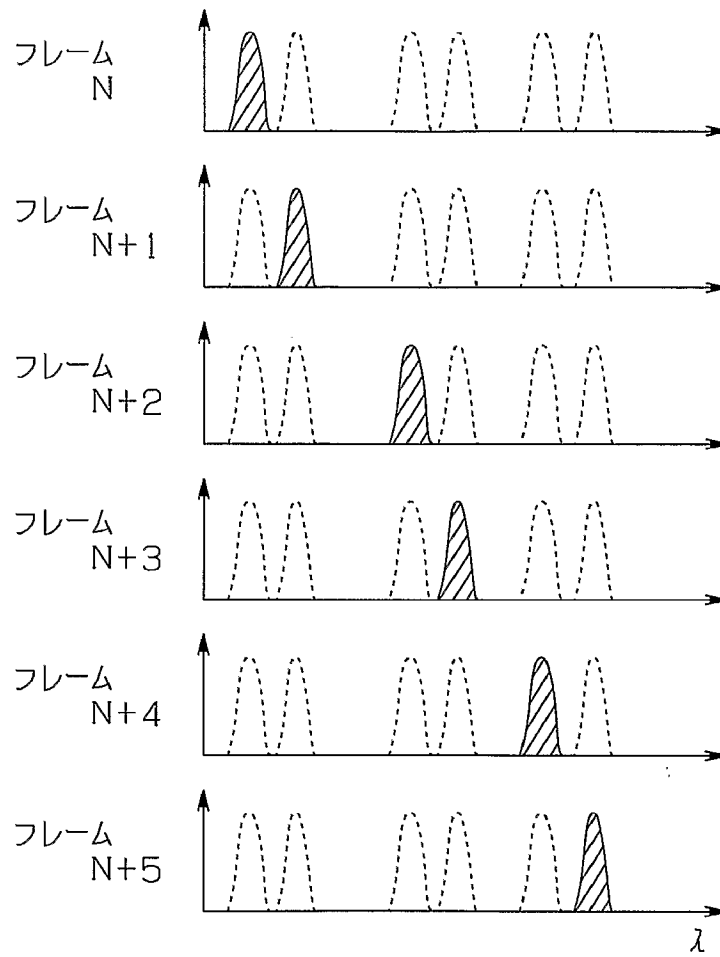


図 7

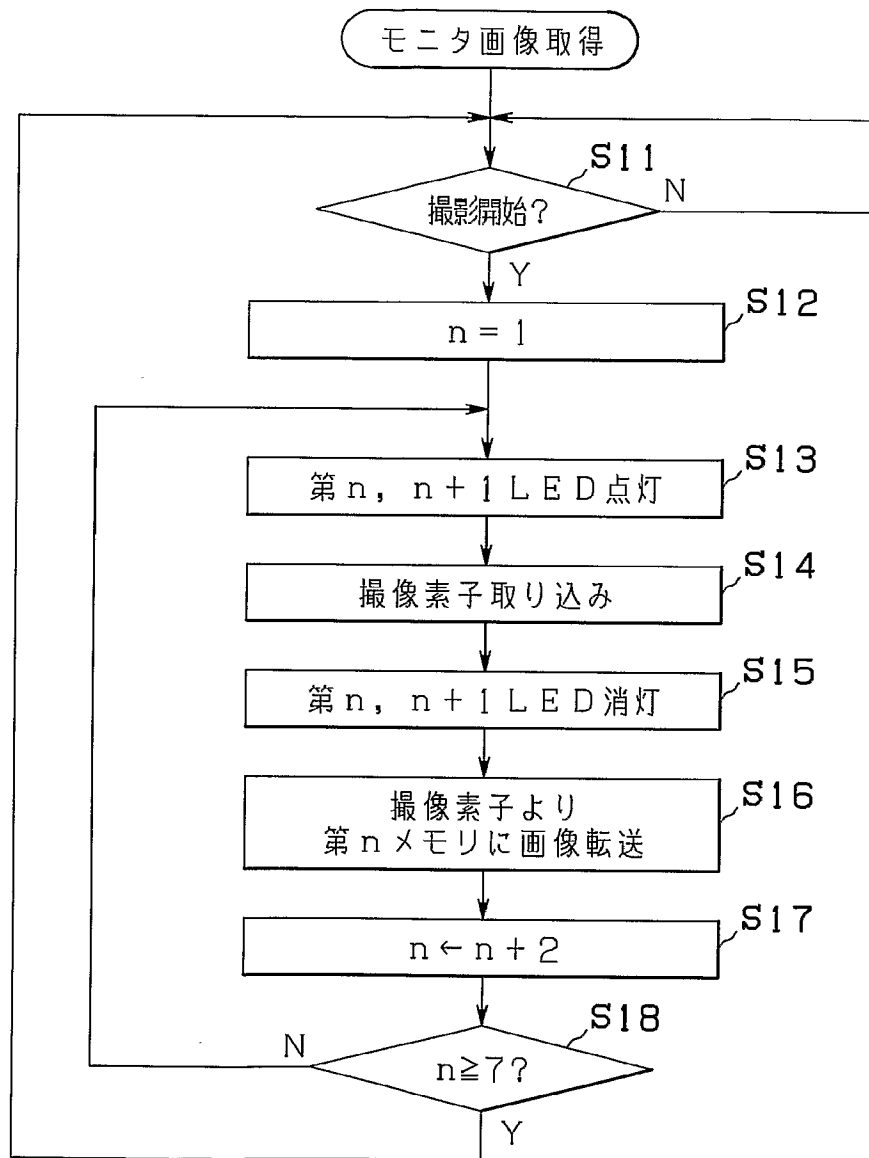


図 8

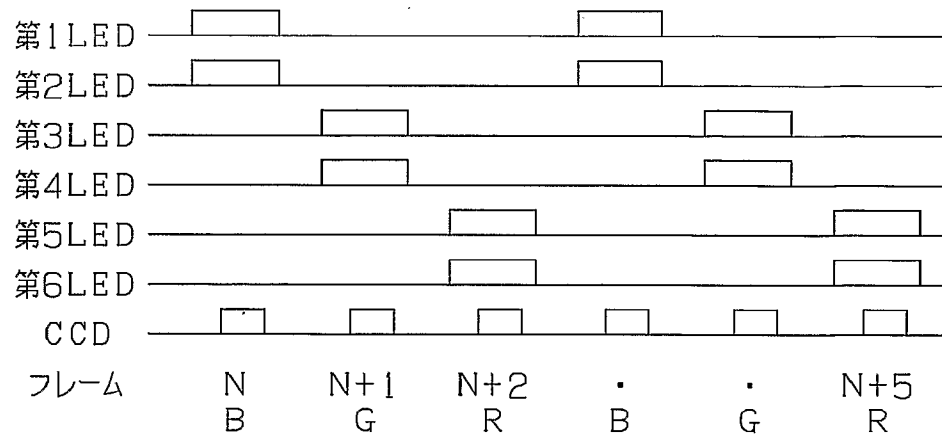


図 9

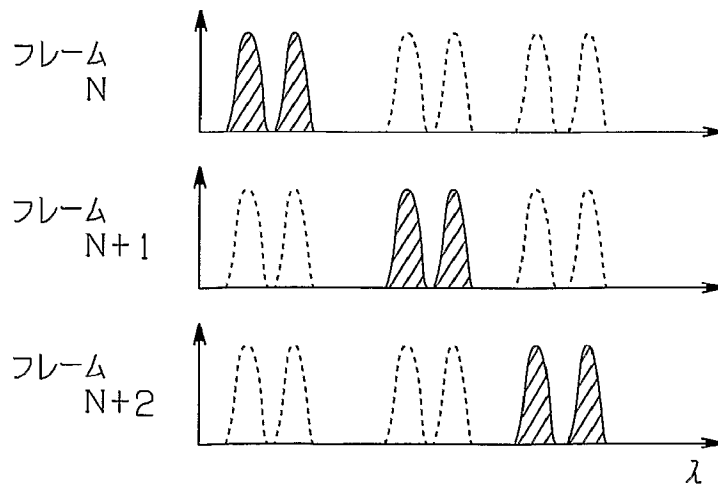


図 10

発光モード (例)											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
LED No.	原色 No.	全点灯	単一点灯	単一原色点灯	群点灯	群点灯B	群点灯G	群点灯R	単一点灯B	単一点灯G	単一点灯R
1	1	○	○ (例)	○	○	○			○		
2	2	○		(例)	○	○					
3	3	○			○		○			○	
4	4	○			○		○				
5	5	○			○			○			○
6	6	○			○			○			
7	1	○		○	(例)	○			○		
8	2	○				○					
9	3	○					○			○	
10	4	○					○				
11	5	○						○			○
12	6	○						○			
13	1	○		○		○			○		
14	2	○				○					
15	3	○					○			○	
16	4	○					○				
17	5	○						○			○
18	6	○						○			

図 1 1

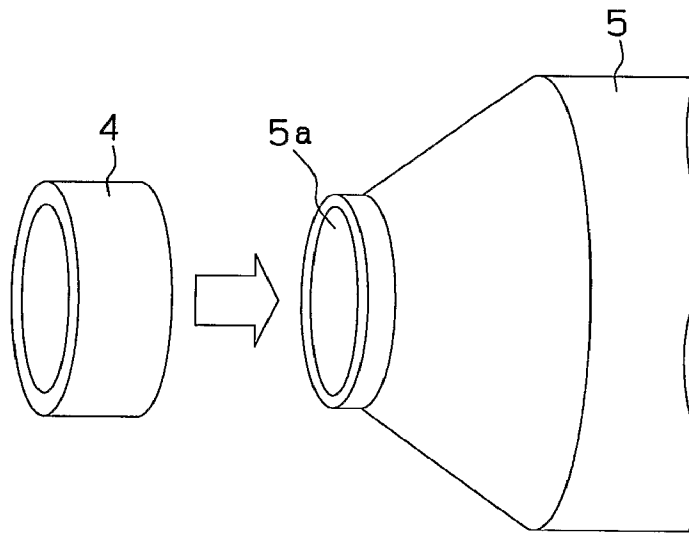


図 1 2

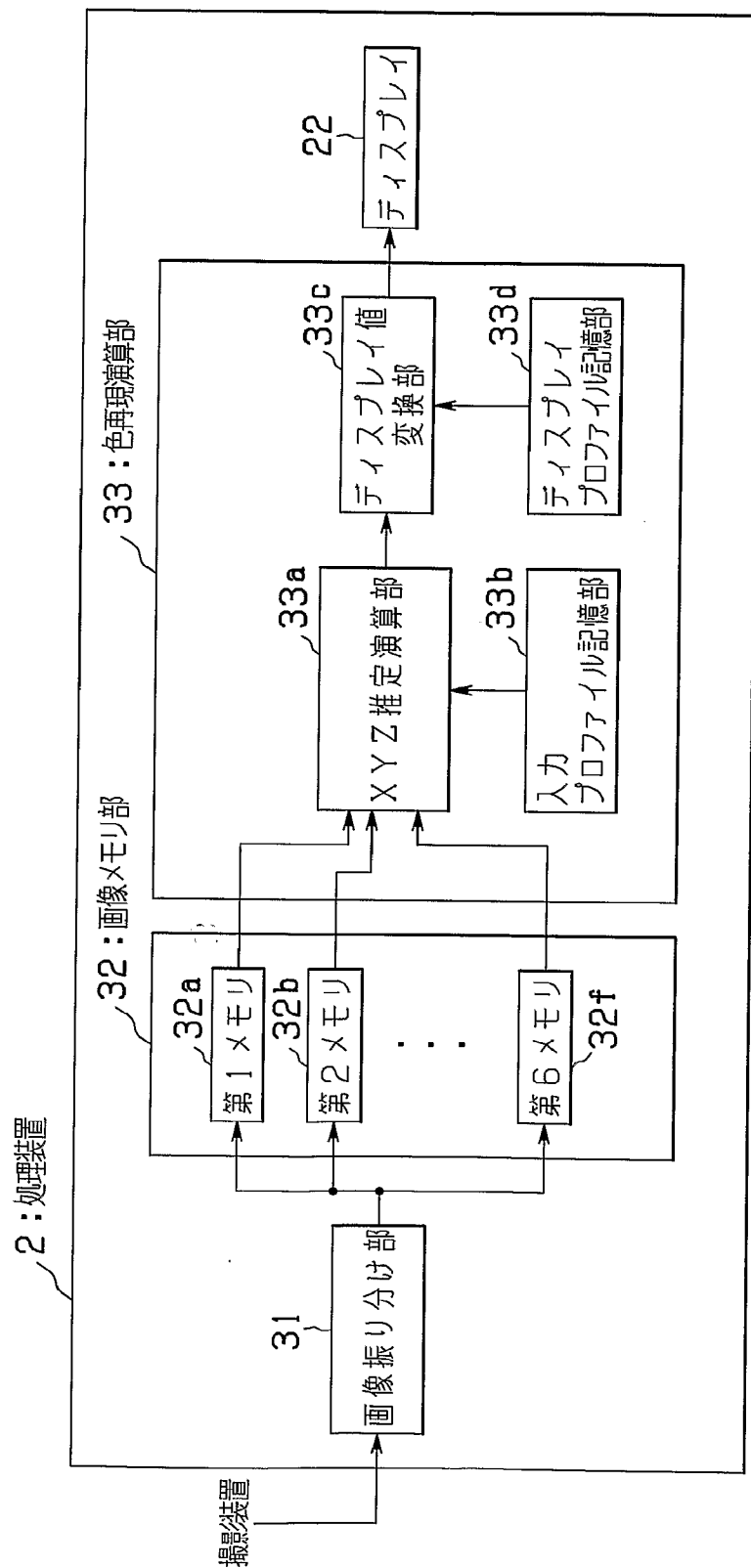


図 13

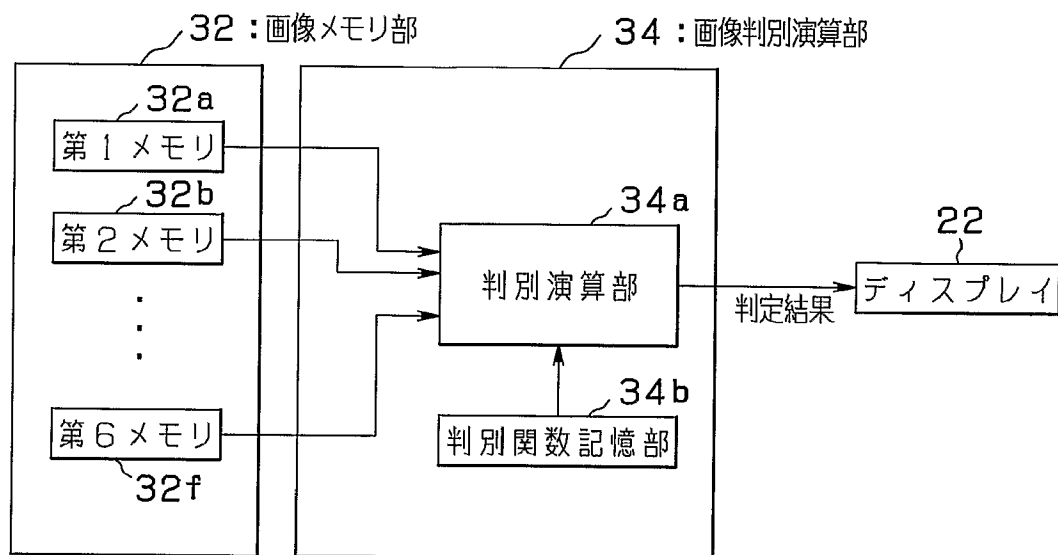


図 14

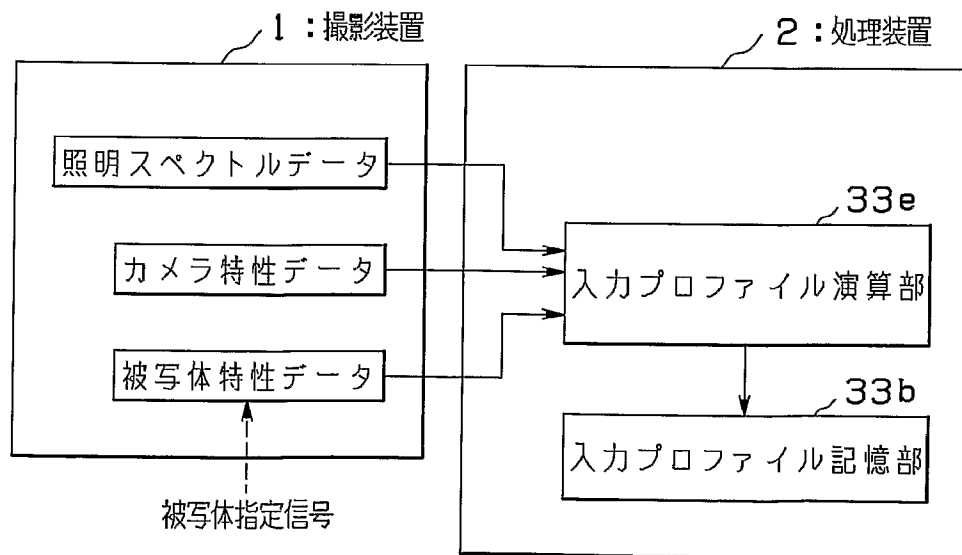


図 15

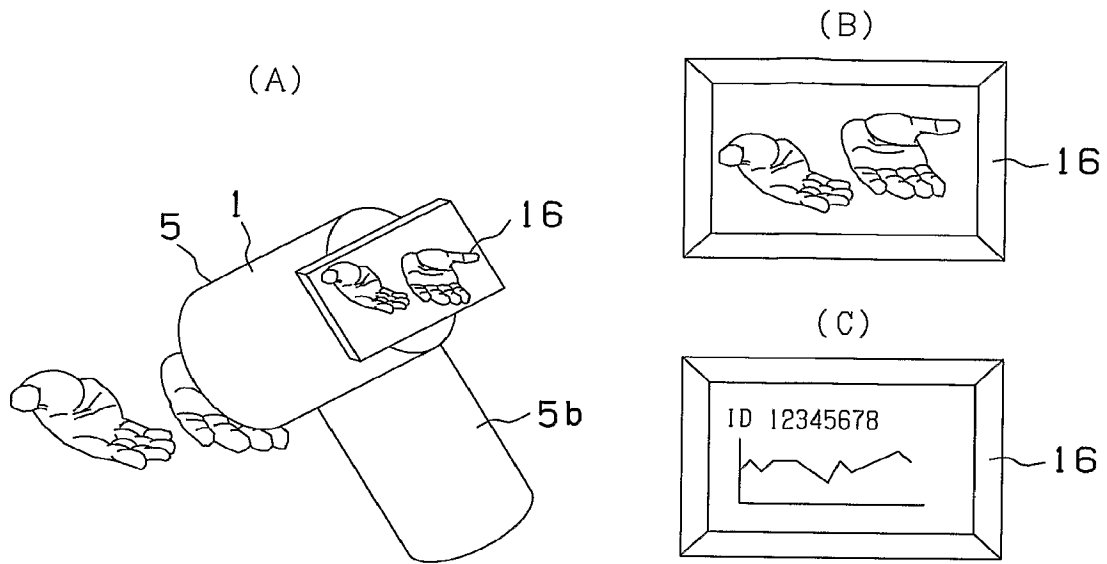


図 16

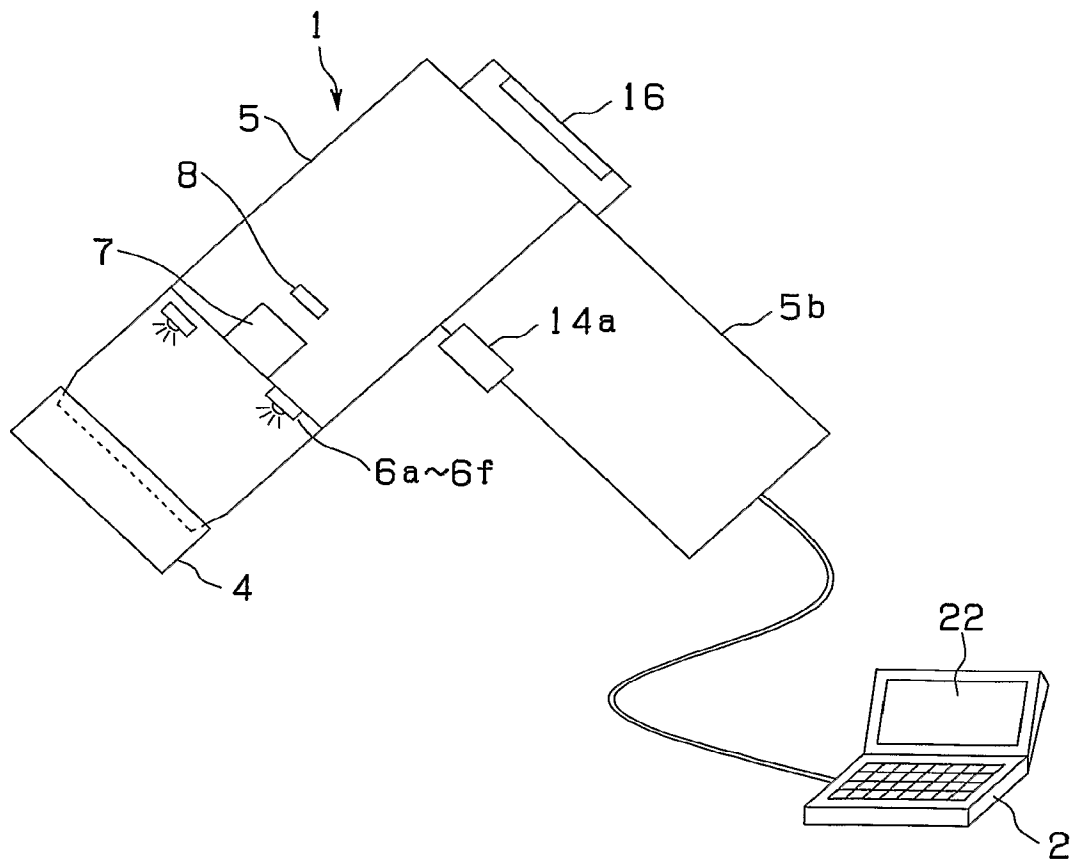


図 17

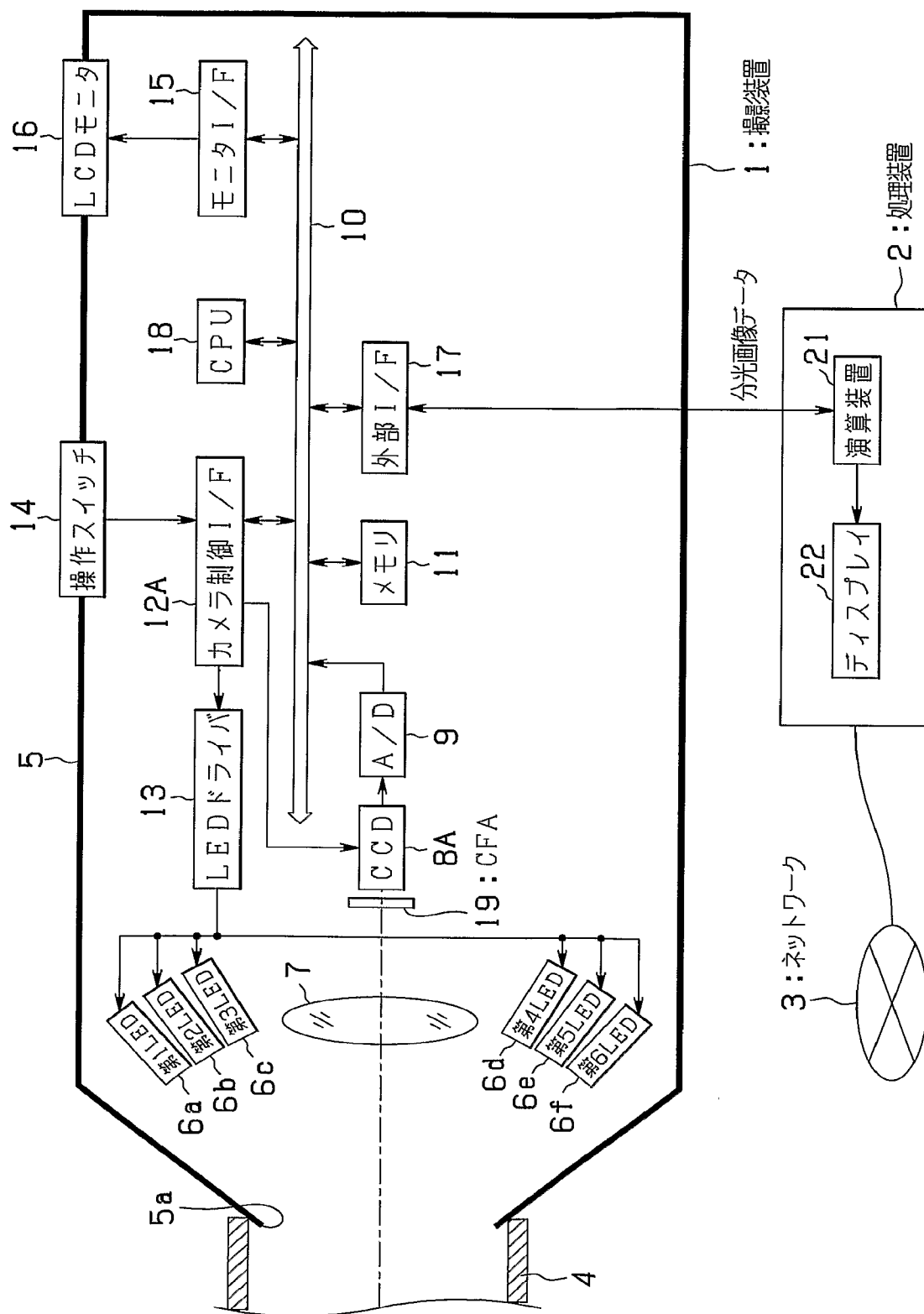


図 18

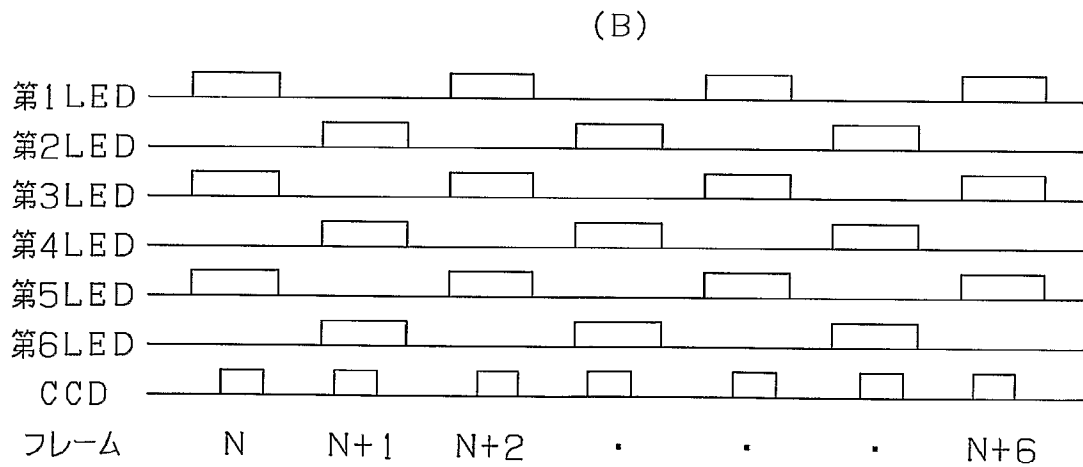
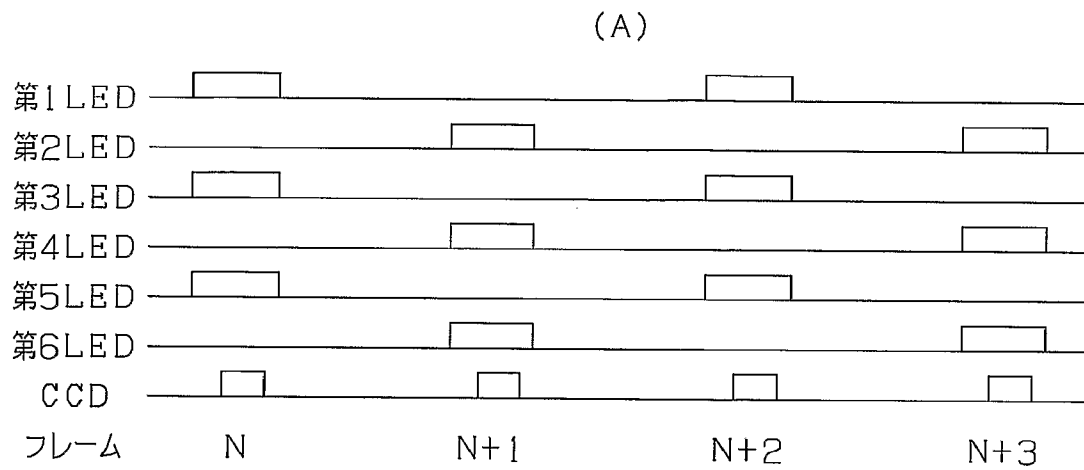


図 19

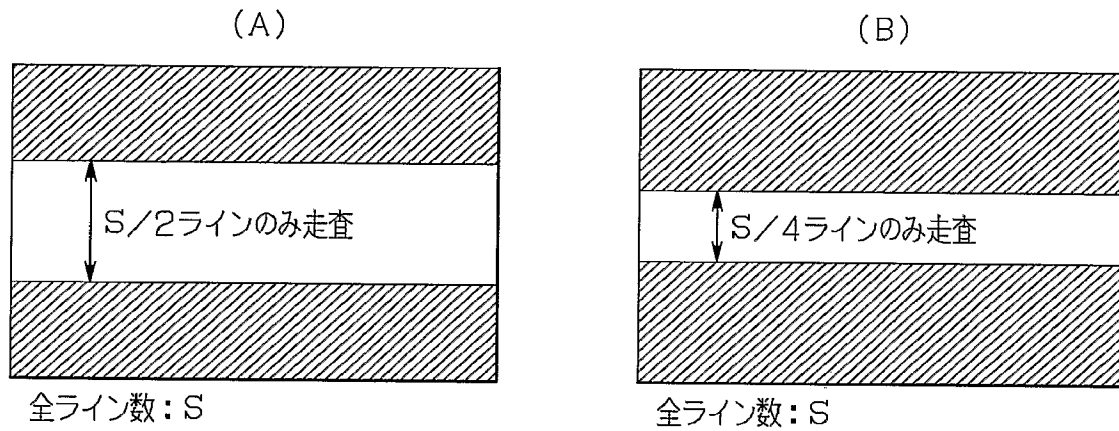


図 20

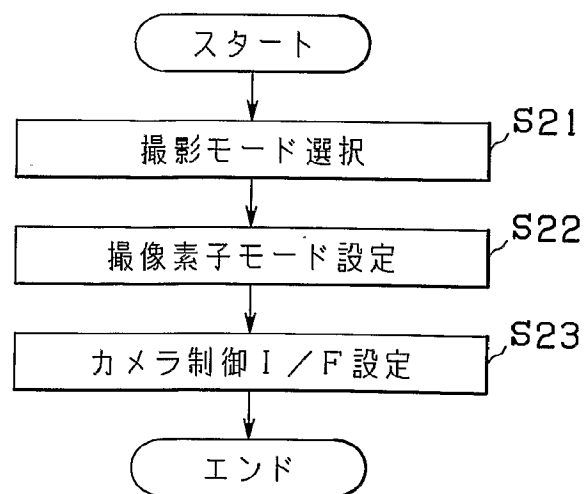


図 2 1

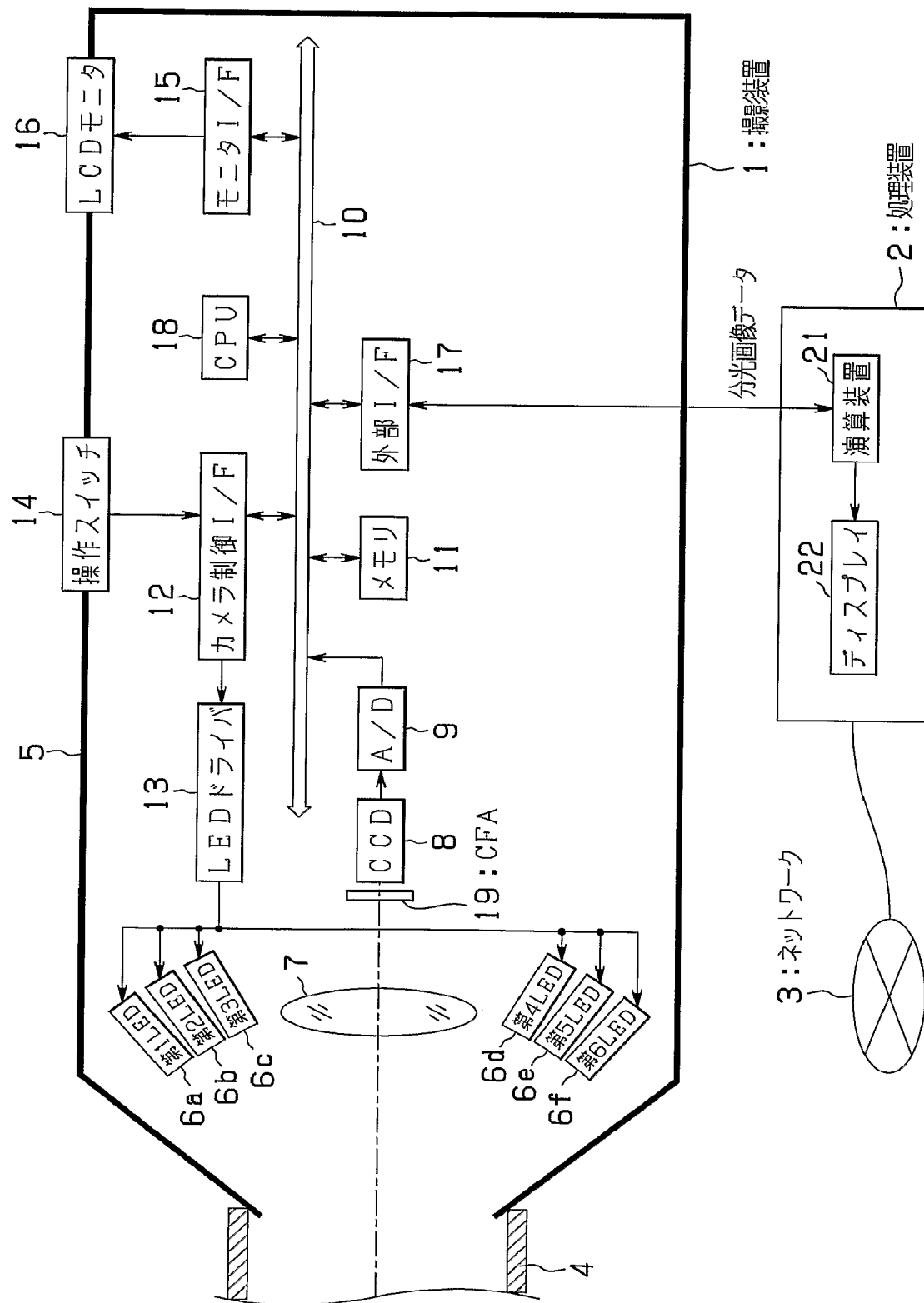


図 22

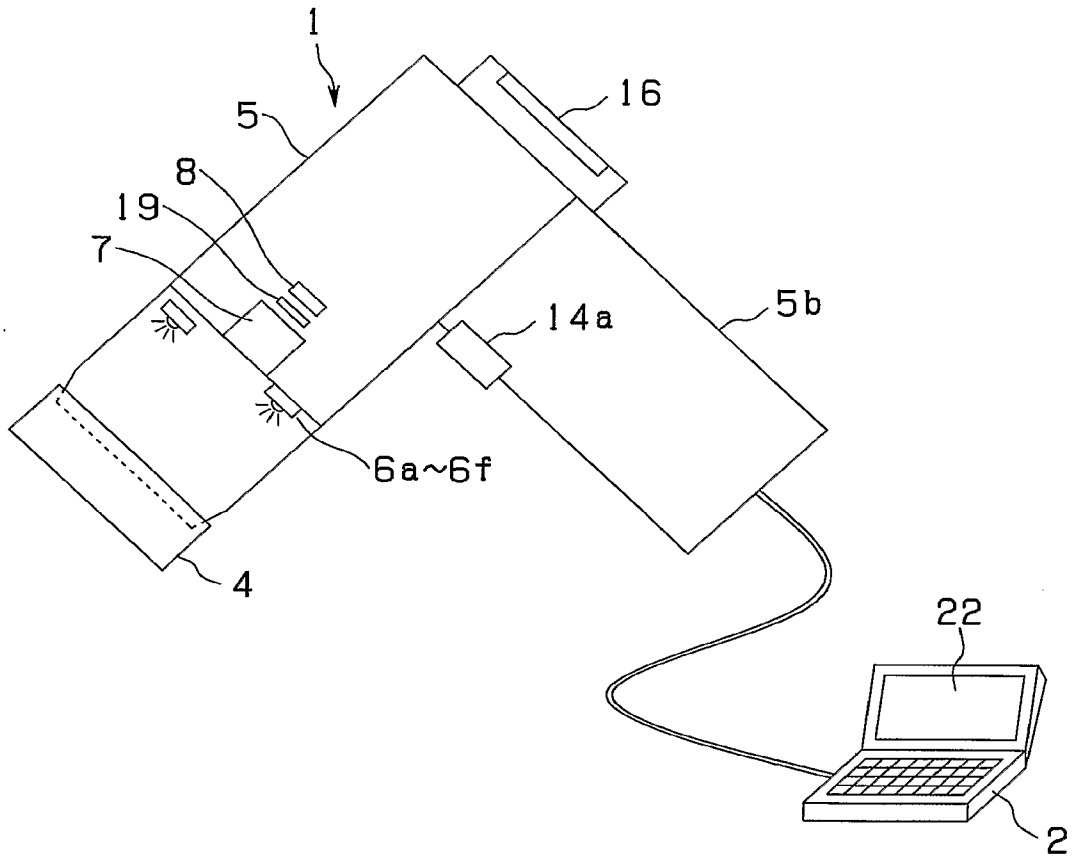


図 23

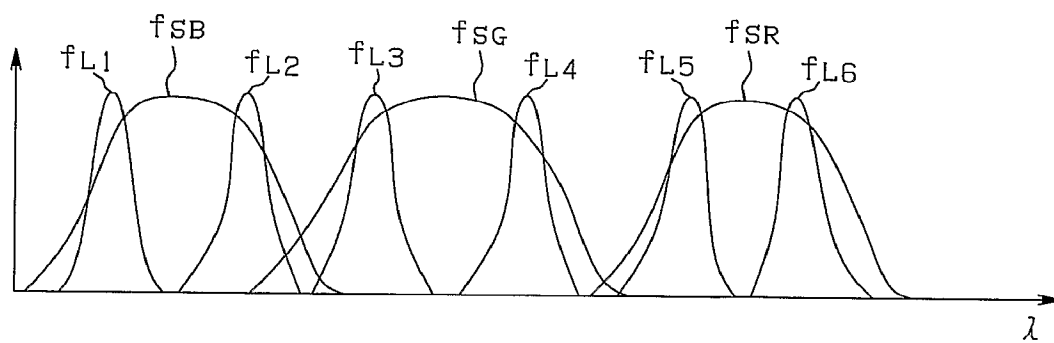


図 24

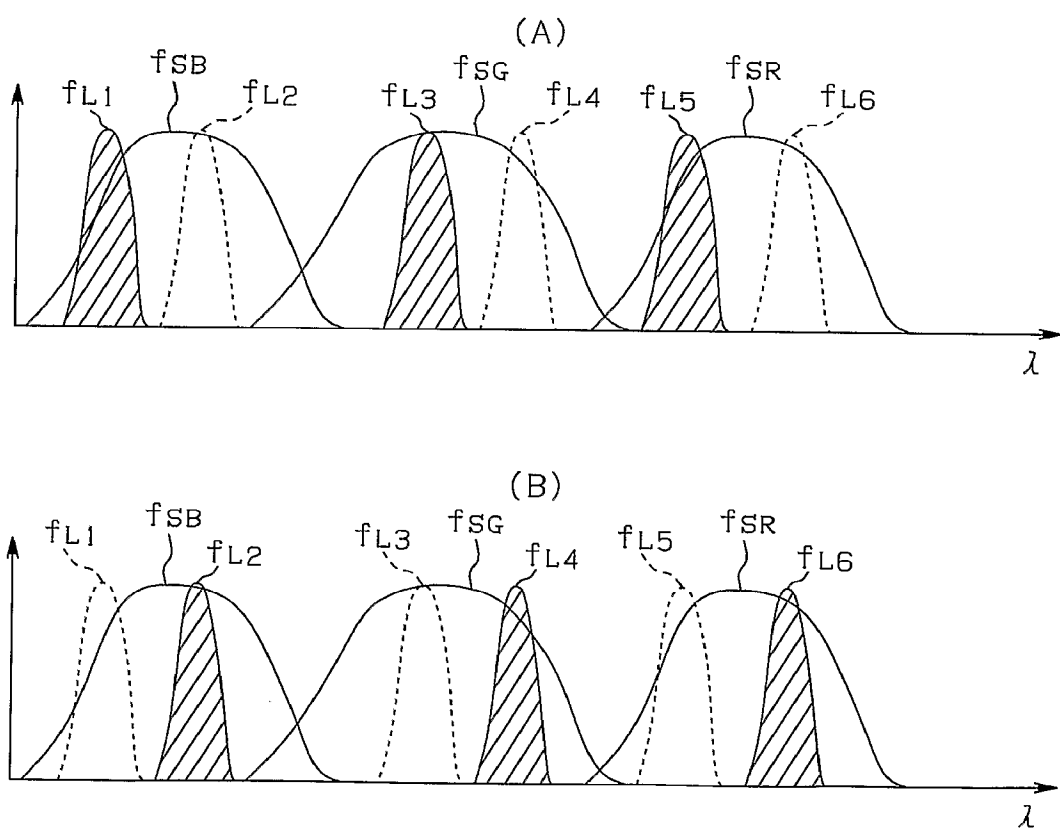


図 25

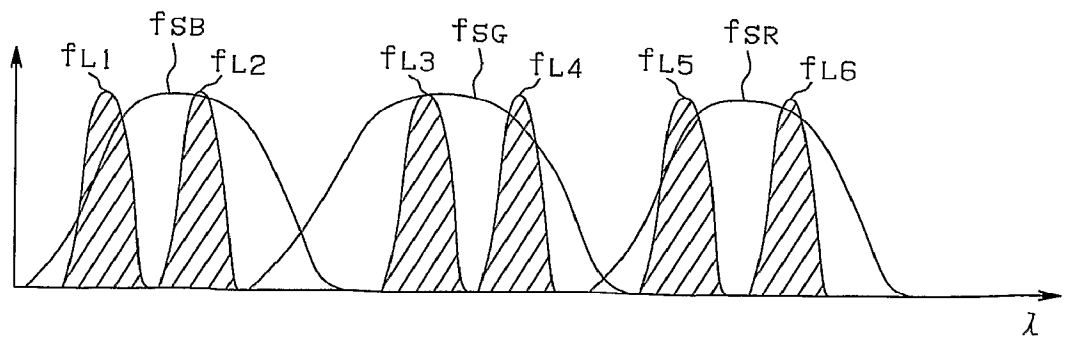


図 26

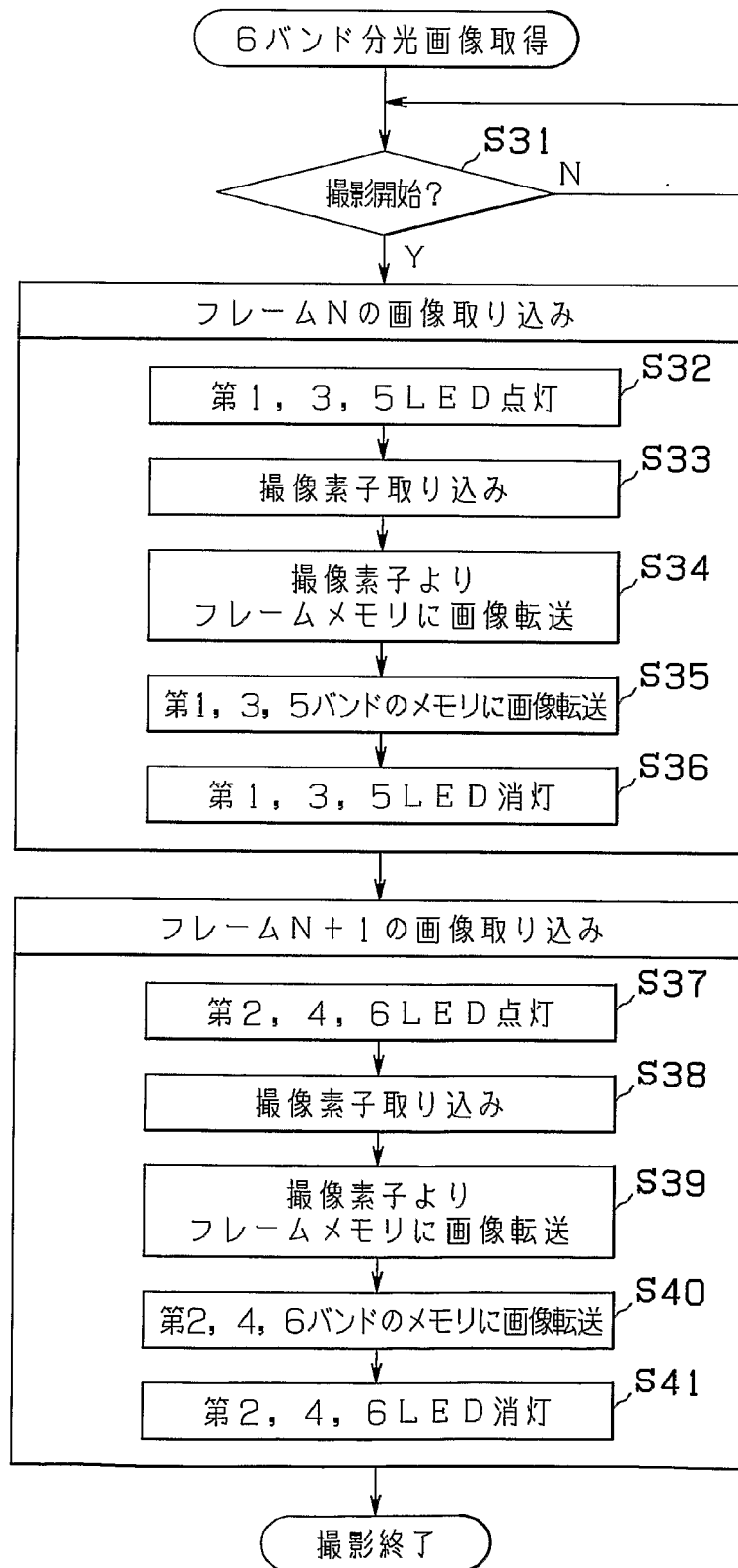


図 27

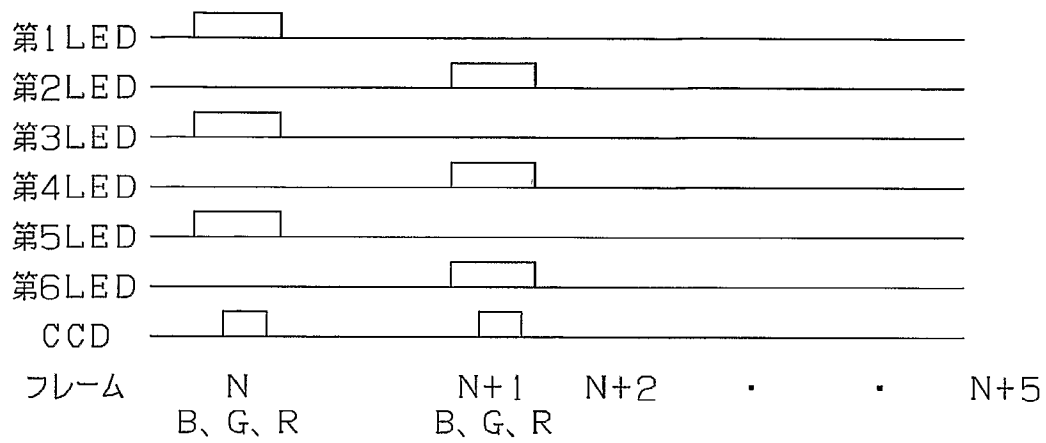


図 28

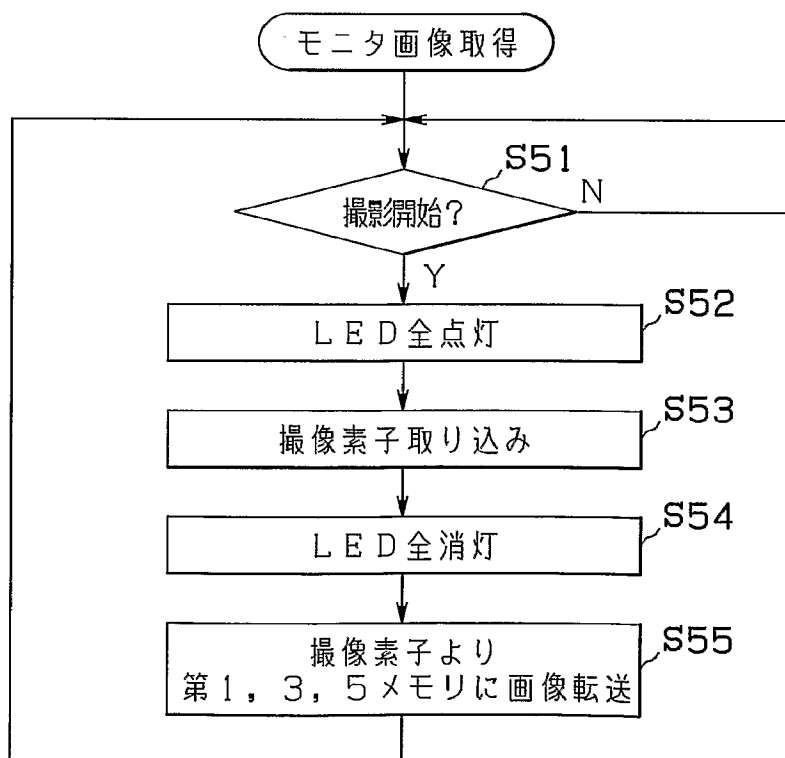


図 29

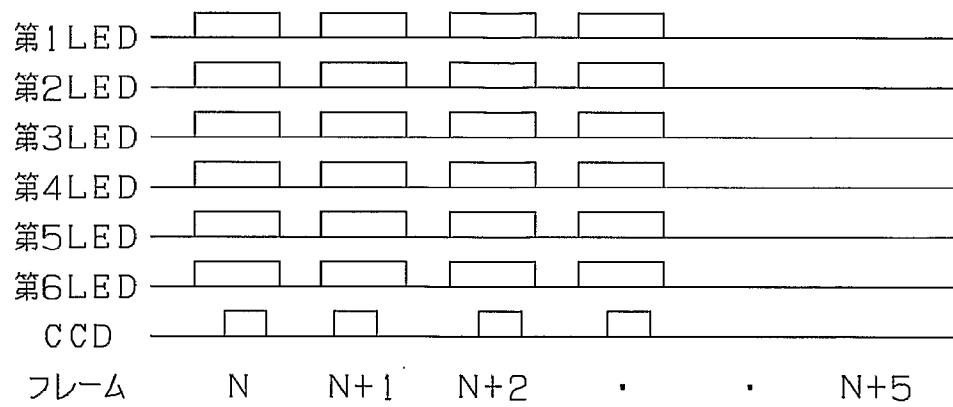


図 30

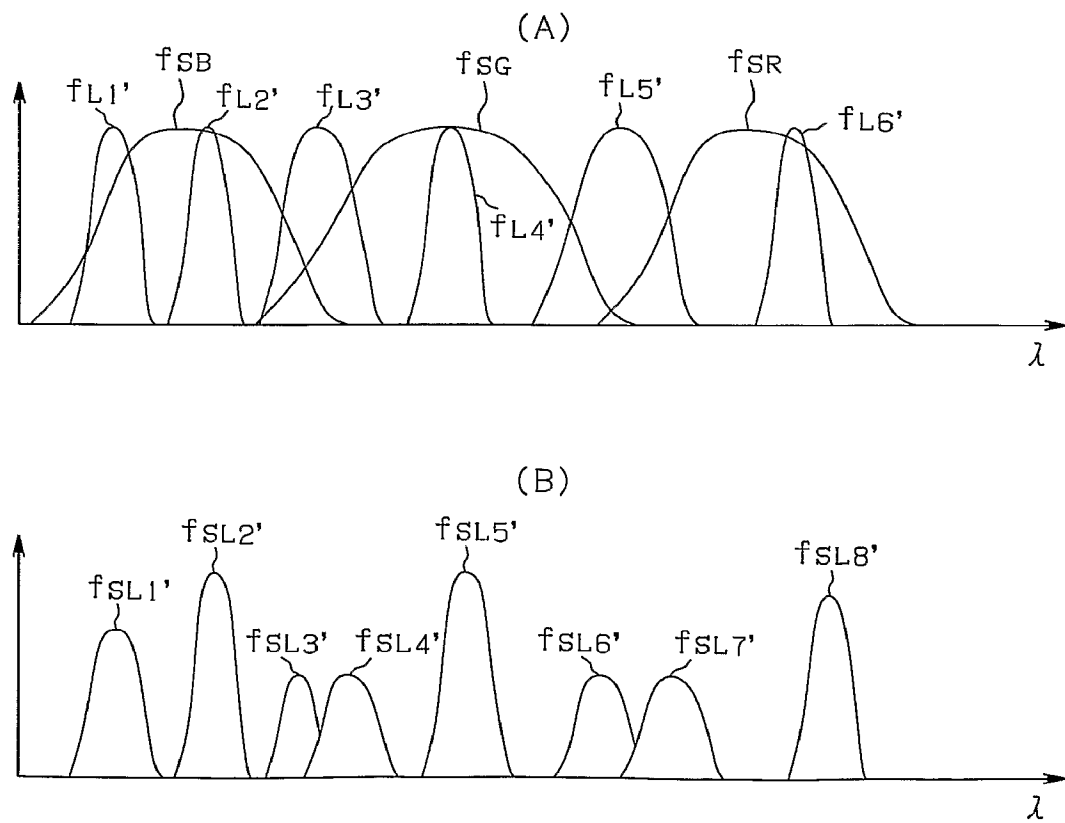


図 3 1

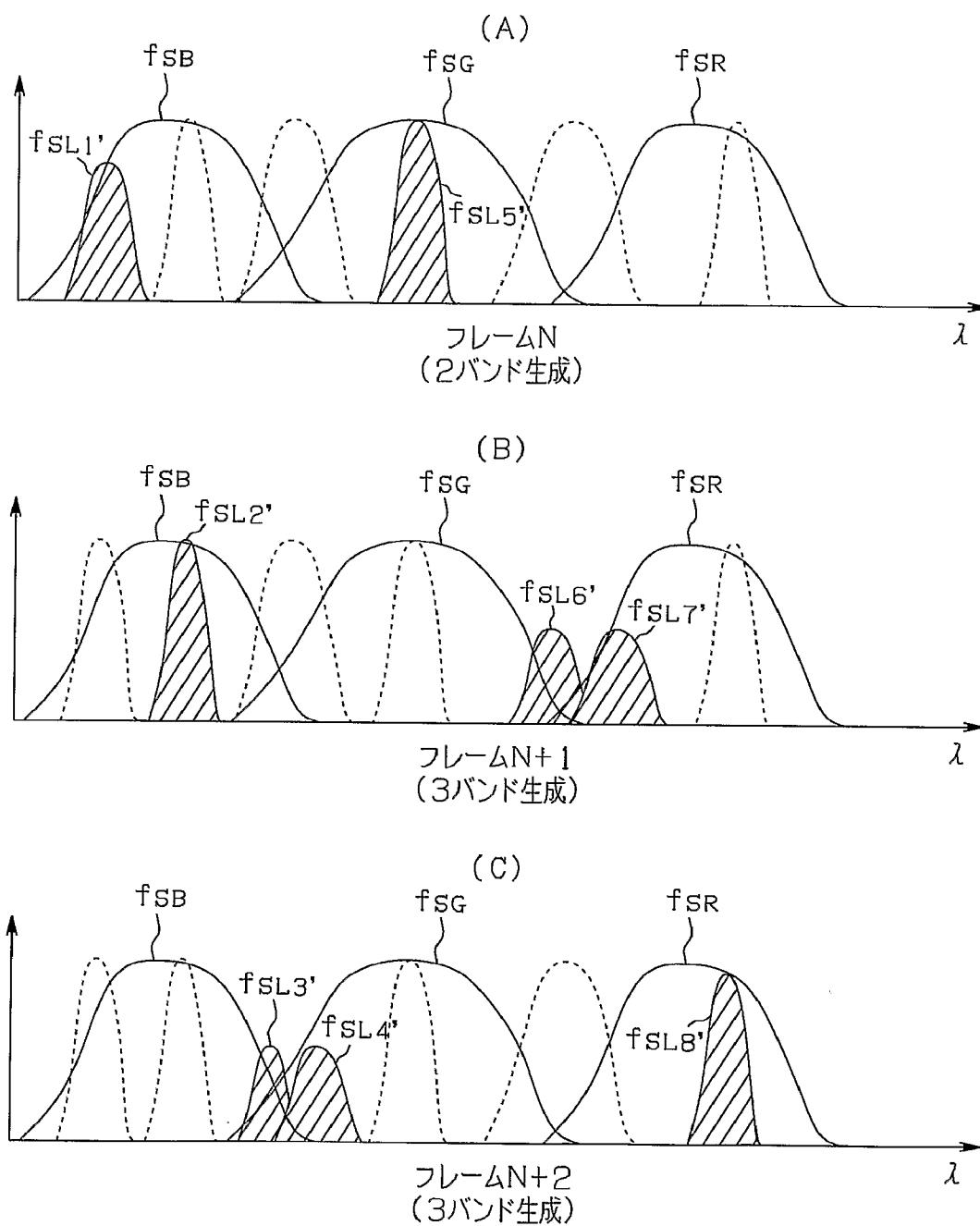


図 32



図 33

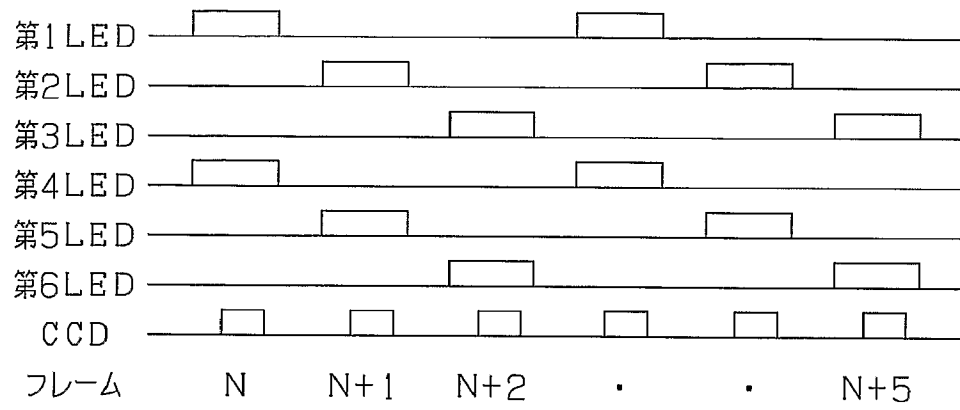


図 34

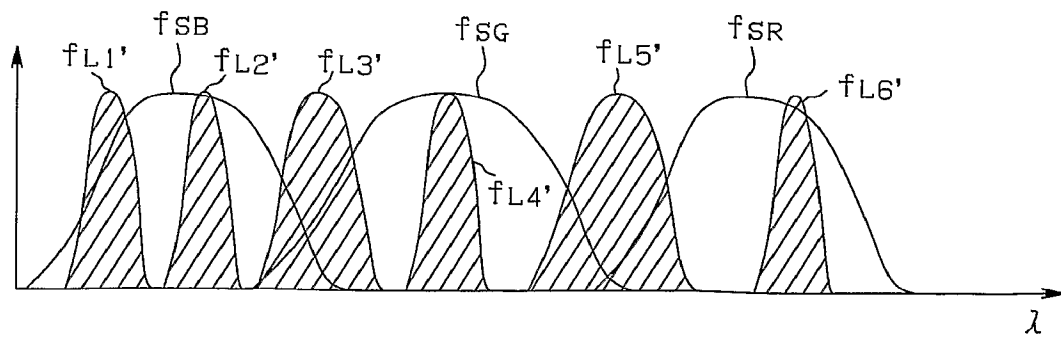


図 35

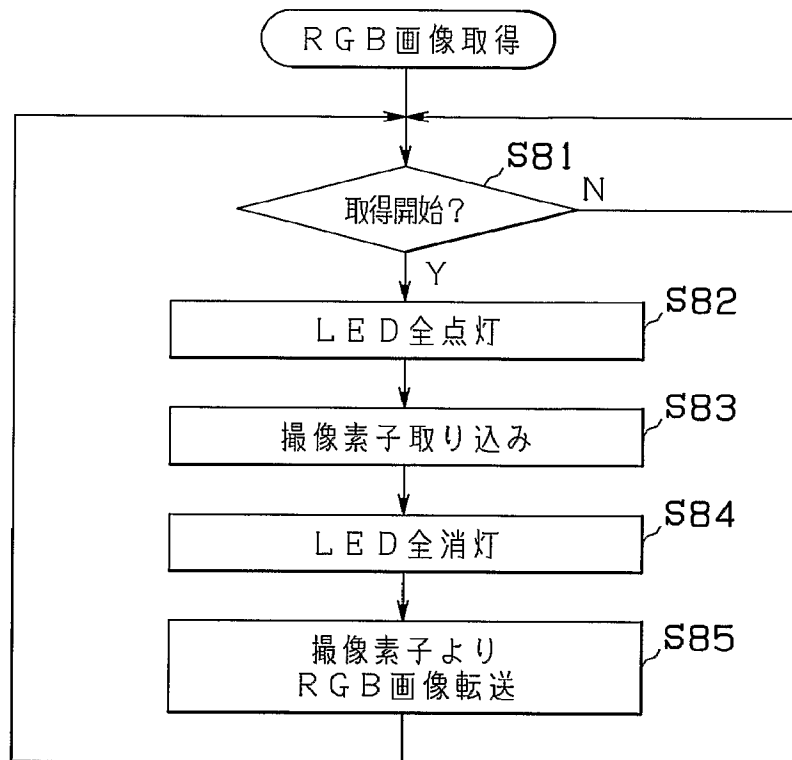


図 36

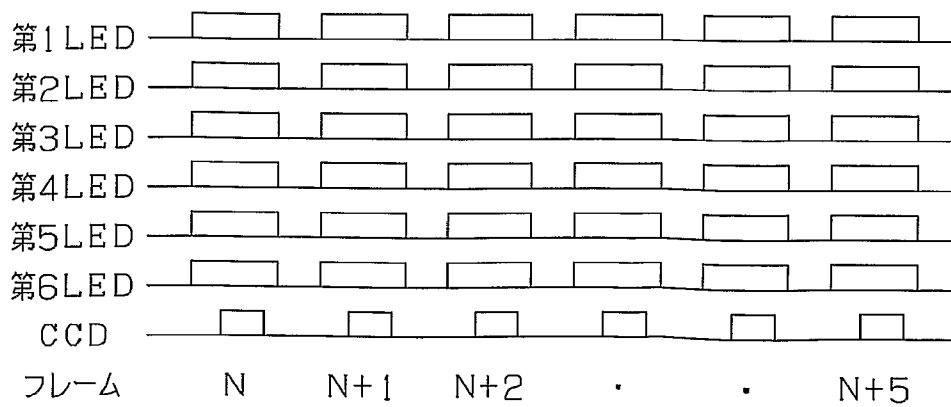


図 37

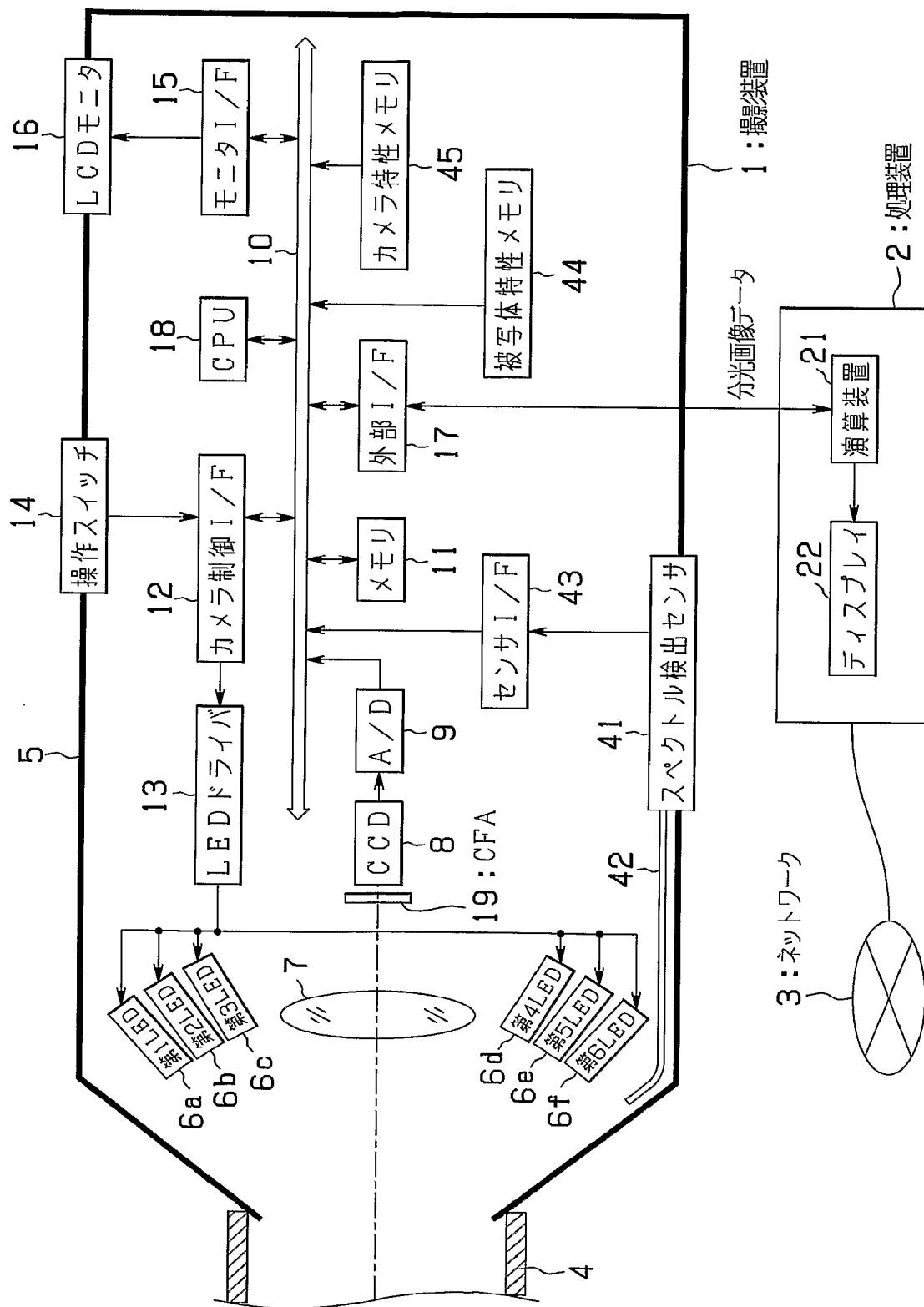


図 38

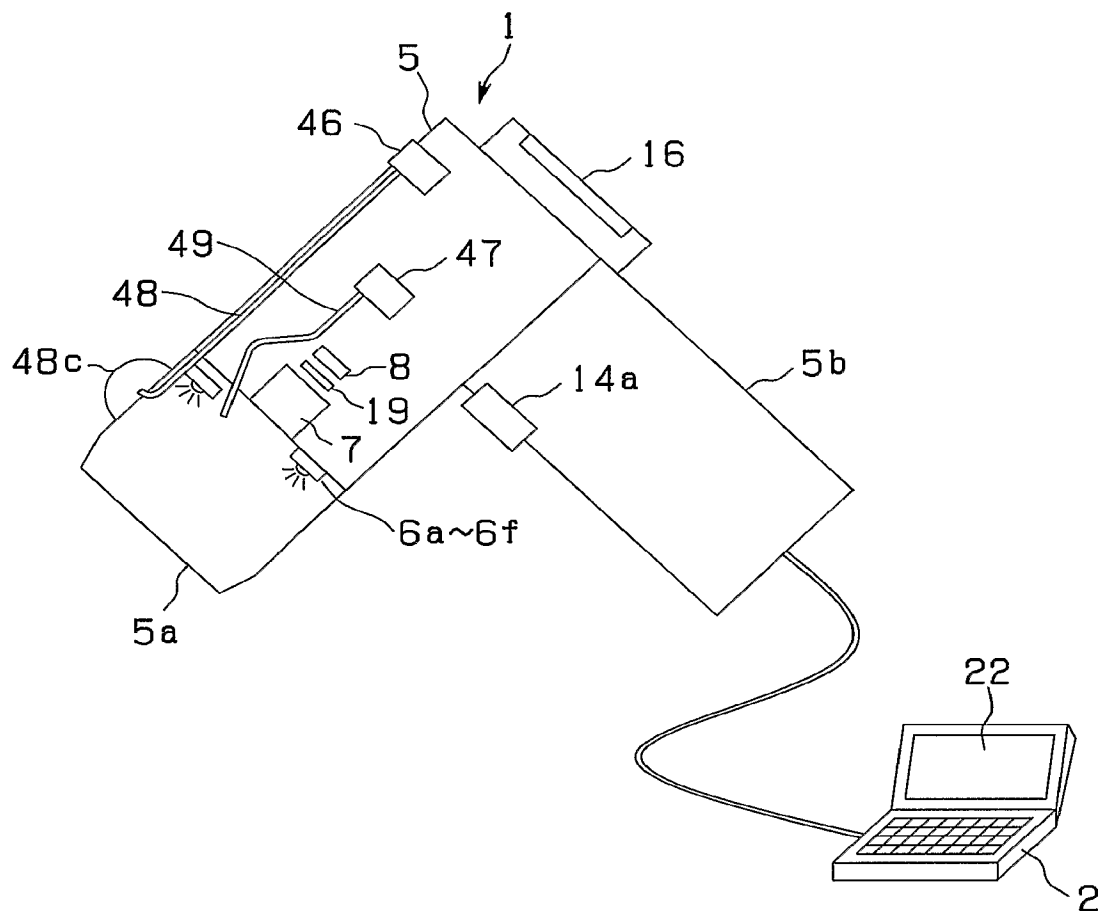


図 39

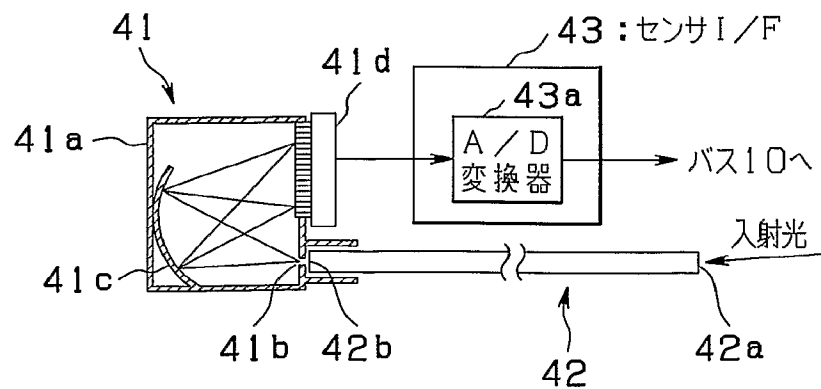


図 40

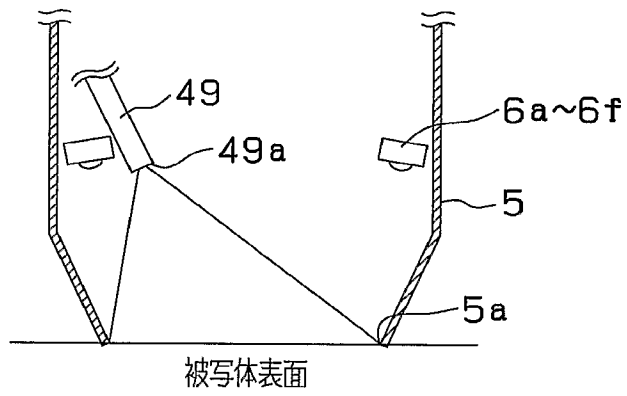


図 41

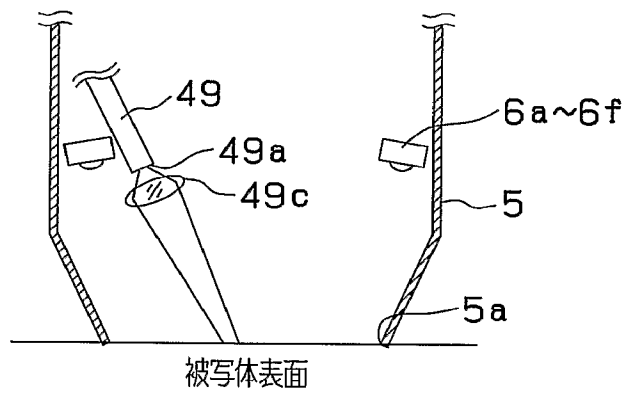
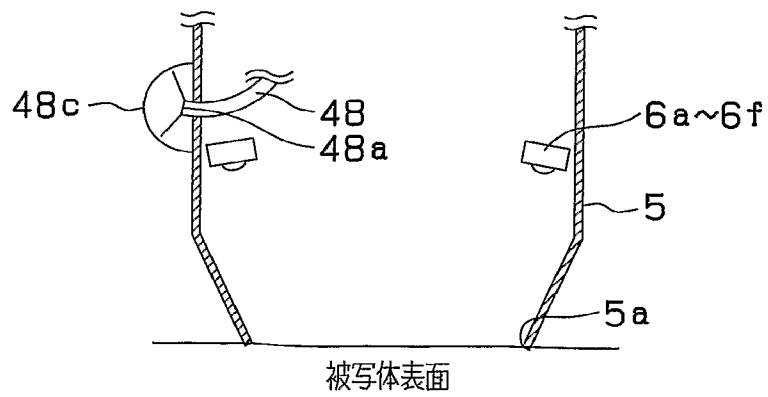


図 42



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP03/09380

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl⁷ H04N9/04

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl⁷ H04N9/04-9/11, A61B5/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2003
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2003	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2003

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP 8-79770 A (Mitsubishi Electric Corp.), 22 March, 1996 (22.03.96), Full text; all drawings & US 5654756 A1	1-5, 8, 13, 17, 18, 21, 22 6, 7, 12, 14-16, 19, 20 9-11
Y	JP 8-65690 A (Sony/Tektronix Corp.), 08 March, 1996 (08.03.96), Full text; all drawings (Family: none)	6, 7
A		
Y	JP 2000-152269 A (Olympus Optical Co., Ltd.), 30 May, 2000 (30.05.00), Full text; all drawings (Family: none)	12

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier document but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"I"

later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X"

document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y"

document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&"

document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
28 October, 2003 (28.10.03)

Date of mailing of the international search report
11 November, 2003 (11.11.03)

Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP03/09380

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 3-90128 A (Kanebo, Ltd.), 16 April, 1991 (16.04.91), Full text; all drawings (Family: none)	14-16
Y	JP 2000-341499 A (Olympus Optical Co., Ltd.), 08 December, 2000 (08.12.00), Full text; all drawings (Family: none)	19
Y	JP 7-120324 A (Olympus Optical Co., Ltd.), 12 May, 1995 (12.05.95), Full text; all drawings (Family: none)	20

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl⁷ H04N9/04

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl⁷ H04N9/04-9/11, A61B5/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報 1922-1996年

日本国公開実用新案公報 1971-2003年

日本国登録実用新案公報 1994-2003年

日本国実用新案登録公報 1996-2003年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
X	J P 8-79770 A (三菱電機株式会社)	1-5, 8, 13,
Y	1996. 03. 22, 全文, 全図	17, 18, 21, 22
A	& US 5654756 A1	6, 7, 12, 14-16, 19, 20
Y	J P 8-65690 A (ソニー・テクトロニクス株式会社)	9-11
	1996. 03. 08, 全文, 全図 (ファミリーなし)	6, 7

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)

「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

28. 10. 03

国際調査報告の発送日

11.11.03

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

井上 健一



5 P

9373

電話番号 03-3581-1101 内線 3502

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y	J P 2000-152269 A (オリンパス光学工業株式会社) 2000. 05. 30, 全文, 全図 (ファミリーなし)	12
Y	J P 3-90128 A (鐘紡株式会社) 1991. 04. 16, 全文, 全図 (ファミリーなし)	14-16
Y	J P 2000-341499 A (オリンパス光学工業株式会社) 2000. 12. 08, 全文, 全図 (ファミリーなし)	19
Y	J P 7-120324 A (オリンパス光学工業株式会社) 1995. 05. 12, 全文, 全図 (ファミリーなし)	20